

Doc. 2635 Evid

Folder 19.

(693)

MICROFILMING

Document 2653 Source: ASAHIGAWA

has been microfilmed on 25 Oct 1948 for
permanent historical record.

(None) (Part) of this document had been extracted for court use.

F. MATTISON
Files Unit
Document Division

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NUMBER 2635

TITLE: "File of documents concerning the North KURILE Island Fortresses".

Held by ASAHIGAWA Division (7th Div) Staff

SOURCE: ASAHIGAWA

Table contents

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2635

9 September 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: "File of documents concerning the North KURILE Island Fortresses". Held by ASAHIGAWA Division (7th Div) Staff

Date: Nov 1940 - Original (x) Copy () Language: Japanese
Jun 1941

Has it been translated? Yes () No (x)

Has it been photostated? Yes () No (x)

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: ASAHIGAWA

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Japanese-Russian Relations; Planning Aggressive Warfare against USSR

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Order to investigate from a military standpoint important geographical features of SAGHALLEIN Peninsula given by the chief of staff of ASAHIGAWA Division, HOKKAIDO, to the commander of North Kurile Islands Fortresses, on November 6, 1940, (p.5, Dispatch 57)

(The report from the commander of North Kurile Islands Fortresses is not found in this file.) However the substance of the order issued was as follows: (An annexed paper)

Items to Investigate -- the Geography of SAGHALLEIN Peninsula. That is Important for warfare against the Soviet Union.

I. Military conditions

Investigate the strength, arms, formation, equipment and posts of Soviet garrisons.

Doc. No. 2635

Page 1

II. Military plans

Investigate barracks, fortification, especially defensive plans, warehouses, airfields and communications.

III. General topographical sketch

Investigate the following points:

(1) Development conditions of shorelines of various areas.

(2) Conditions of ports, bays, seashore and surface from the viewpoint of landing operations and maritime transportation. (Especially the effect of seasons, weather and maritime phenomena upon voyage and landing operations.) Freezing conditions and the moving and changing conditions of icebergs at the times of freezing seasons and during the ice-free season.

(3) Quartering capacity in principal cities and towns, and winter confinement capacity in the coldest districts.

(4) Conditions of cities and towns as bombing targets.

(5) Railways, water transportation, automobiles and other traffic and communication.

(6) Characteristics of atmospheric phenomena, especially its effect upon ground and aerial battles.

IV. The condition of the people and their attitude toward the Japanese.

Note: Pictures and maps of harbor areas orders re study and use of Russian language, etc., are included in file in some quantity.

Proj. No.	
S. A.	30
Sack	31
Item	16

2635

ASAHIGAWA GRAPE

16

旭川師團參謀部

昭和十五年十一月以降
 北千島要塞司令部関係綴

月	日	發翰番號	宛名	發翰者	要旨
11月	28日	旭師參電 三三七	陸軍省兵務局長 赤中總長	3	北千島要塞之圖2件
11月	3日	旭師參電 三五七	帳蓬要司官	3	全 件
11月	4日	旭師參電 五七	北千島要塞司官	3	対山兵要地理調査之圖2件
11月	9日	旭師參電 二五四	關係部隊長	3	臨時露港通夜要員選定1件
11月	7日	旭師參電 三七六	3	3	北千島臨時要塞司令部設置1件
11月	3日	3 三〇八	大港要港部	3	全 件
11月	12日	旭師參電 三〇九	小林部隊長	3	大港要港部上揚定1件

留守第七師團參謀部

7 6 5 4 3 2 1

暗 無

發送 番號	師旭	師旭 參電第 參〇九號	名宛	中林部隊長	名出差	岩ノ謀長					
	將少附部令司			長謀參		長部務主	官副級高	任主	任主寫淨	司令部附	兵器部
<p>大津要港部ト協定結果ト來年四月迄ハ 千島方面通航ノ事トモ現地ニ打テ已得 其事情アリハ艦艇派遣ノ準備アリ 高該方面ニ臨時艦艇派遣協合ハ多 大連務セラルルコト</p>											

將少附部令司

長謀參

長部務主

官副級高

部保關

副官部
參謀部

任主

任主寫淨

15.11.14
昭和
發着

受	發
月	月
日	日

日發
日調

3

軍事機密

發送 番號	件名	帥團長	北千島臨時要塞司令部 設置、件通牒
		司令官附少將	
發送 番號	件名	參謀長	北千島臨時要塞司令部 設置、件通牒
		參謀部	
發送 番號	件名	主務部長	北千島臨時要塞司令部 設置、件通牒
		主務部	
發送 番號	件名	高級副官	北千島臨時要塞司令部 設置、件通牒
		副官部	
發送 番號	件名	主任	北千島臨時要塞司令部 設置、件通牒
		參謀部	
發送 番號	件名	淨寫主任	北千島臨時要塞司令部 設置、件通牒
		經理部	
發送 番號	件名	司令官附	北千島臨時要塞司令部 設置、件通牒
		軍醫部	
發送 番號	件名	兵器部	北千島臨時要塞司令部 設置、件通牒
		獸醫部	
發送 番號	件名	差出名	北千島臨時要塞司令部 設置、件通牒
		法務部	
首題、編成要旨、五月五日函館出帆 首題、要害、編制、命令、其要旨、五月三日 函館出帆、慢送、到着、事務、開始、件 自今防衛情報、周之便宜、與、之度 通牒、		昭和 15 年 11 月 7 日 發送主任	

陸軍機密
旭師參警第三七六號

北千島臨時要塞司令部設置ノ件通牒

昭和十五年十一月九日

第七師團參謀長 岩切

秀

大湊要港部參謀長 森 德治 殿

首題要塞ノ編制ヲ令セラレ其要員ハ去月三十日函館出帆幌筵ニ到着事
務ヲ開始セシニ付自今防衛、情報勤務等ニ關シ便宜與ヘラレ度通牒ス

陸軍

4

十月二十日旭師參教第貳五四號
 件之圖之左記要領ニ依リ嚴選セリ
 候神對ニ對シテ各派毎ニ一適直ノ方格ヲ以テ
 諸事一書卷試験ヲ實施セリ
 以上
 長記
 修平中津

師團長	師團長
司令部附	司令部附
參謀部	參謀部
主務長	主務長
高級副官	高級副官
關係部	關係部
副官部	副官部
參謀部	參謀部
司令部附	司令部附
兵器部	兵器部
經理部	經理部
軍醫部	軍醫部
獸醫部	獸醫部
法務部	法務部
昭和	昭和
年月	年月
日	日
發	調

發送
 番號
 旭師參教第貳五四號
 宛
 關係部
 副官部
 參謀部
 司令部附
 兵器部
 經理部
 軍醫部
 獸醫部
 法務部

關係部
 副官部
 參謀部
 司令部附
 兵器部
 經理部

名出差
 參謀長

發送主任

二、修神者ニハ專事ナラズテ、
徳ヲ修ムルニシテ

三、徳者、徳ヲ修ムルニシテ、
小徳ヲ修ムルニシテ

之ニシテ

尚、此ノ修徳ノ方ニシテ、
既教育者ノ能力保持

ニシテ、
通信教育ノ勵行ニシテ

ラハ、
指導方ヲ取テ、

旭師參教第二五四號

臨時露語通譯委員選定ニ關スル件遺牒

昭和十五年十一月九日

旭川師團參謀長 岩 切 秀

十月二十六日旭師參教第二三二號ニ係ハル首題ノ件ニ關シ左記要領ニ依リ嚴選セラレ度依命通牒ス

左 記

一、候補者ニ對シテハ各隊毎ニ適宜ノ方法ヲ以テ語學ノ素養試驗ヲ實施ノ上選定セラレ度

二、候補者ニハ妻帯者ヲ避ケラレ度

三、他兵隊ヨリノ派遣者モ小銃ヲ携行セシメラレ度

尙近ク歸隊セシメラル、既教育者ノ能力保持ニ關シテハ教育隊ヨリ直接本人宛通信教育ヲ勵行セシメラル、管ニ付指導方取計ハレ度

附部	官	副	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	將少附部	長團師

(天)

暗

電報翻譯紙

暗・平 電報

昭和十五年十一月十一日
日午前後

日午前後	20時	45分	電信局所受付
日午前後	20時	54分	電信局所受付
日午前後	20時		電報班受付

配布先 參・副・兵・經・醫・獸・兵地・職・電

參謀長

宛 發信者

本文參電第六五三號

昭和十六年國土防衛計畫訓令
同別冊及指示ハ貴師團及北千島、
津輕兩要塞ハ配布ノ旨ヲ取纏メ
十四日十二時三十六分旭川著ノ予定ヲ
以テ尚部土屋曹長ヲテ携行送付

翻譯者

杉田

陸軍部 師團部
15.11.12
受付

セシム

二 貴部より北千島要塞へ送付ハ該地

ニ於テ工事中心築城部本部人員

還送ノ爲十六日大泊出帆ノツキ丸

ヲ利用セラレ度

ツキ丸ハ書類到着マテ待機セムル如ク

貴方ニ於テ手配済

極秘

師團長
司令部附少將
參謀長
主務部長
高級副官
主任
淨寫主任
昭和拾伍年十二月四日調
昭和一
月
六日發

件名
對兵要地理調査之
關係部
副官部
參謀部
司令部附
兵器部
經理部
軍醫部
獸醫部
法務部

發送番號
旭師參情第 五七號
宛名
懷葉要塞司令官
旭師參謀長
名出差

勘察加方面之對スル兵要地理ハ從來ヨリ津輕要塞司令部ニ於テ担任シ相當ノ成果ヲ擧ケワ、アルモ尚十分ナラザルヲ以テ貴司令部ニ於テモ其ノ地理的使命ニ鑑ミ該方面ノ兵要地理ニ關シ調査相成度追テ調査事項ハ別紙ニ據ラレ度又情報ハ入手

5

右第細大トナク其出上處ヲ明ニシ速ニ報告セシ
度

特ニ調査ニシテ派遣スルニ付

尚領海侵犯或ハ漂着ノ船舶等アラン柳留ノ上

電報ヲ以テ速報セシメ度

別紙

勘察加方面対ソノ要地理調査事項

一、軍情

兵力、兵器、編成、裝備、配置等

二、軍事施設

兵站、築城、特ニ防備施設、人倉、庫、船

行場、通信等

三、一般重要地誌

1. 沿岸各地、開港状況

2. 上陸路及海上輸送、見地之基、港灣

海岸及海面、氷況、特之、季節、天候及

海象、航海及上陸行動之及、影響、御着、

結氷、暑中、結氷及解氷期之、於今、氷原

、移動、變化、氷況調査

3. 主要都市及住民地等之於今之始以力

並極害地之於今之始以力

4. 煤礦目標卜之、主要都市及住民

地ノ知識

5. 鐵道、水運、自動車等運輸之圖

交通

6. 氣象、特種、特、地上及航空、各種

戰中ノ及ホノ影響

四、一般民情及対日態度等

昭和十四・十二・永田田納

極秘

陸軍

師參情第 五七 號

對ソノ兵要地理調査ニ関スル件 通牒

昭和拾五年十二月四日

旭川師團參謀長 岩切 秀

幌筵要塞司令官 小林俊一殿

勘察加方面ニ對スル兵要地理ハ從來ヨリ津輕要塞司令部ニ於テ担任シ相當ノ成果ヲ擧ケツツアルモ尚十分アラサルヲ以テ貴司令部ニ於テモ其地理的使命ニ鑑ミ該方面ノ兵要地理ニ關シ調査相成度

追テ調査事項ハ別紙ニ據ラレ度又情報ハ入手次第細下シテ其出處ヲ明ニシ速ニ報告セラレ度
尚領海侵犯或ハ漂着ノ船舶等アラハ特ニ調査員ヲ派遣スルニ付抑留ノ上電報ヲ以テ速報セラレ度

6

別紙

勘察加方面對「兵要地理調查事項」

一 軍情

兵力、兵種、編成、裝備、配置等

二 軍事施設

兵營、築城特二防備施設、倉庫、飛行場、通信等

三 一般兵要地誌

一 沿岸各地ノ開發狀況

又上陸戰鬥及海上輸送ノ見地ニ基ク港灣海岸及海面狀況

特ニ季節、天候及海象、航海及上陸行動ニ及ボス影響、結

氷ノ景況、結氷及解氷期ニ於ケル氷原、移動變化ノ狀

況調査

二 主要都市及住民地等ニ於ケル宿營力並極寒地ニ於ケル冬營

ニ関スル事項

三 暴撃目標トシテ主要都市及住民地ノ狀況

四 鐵道、水運、自動車等運輸交通ニ関スル事項

五 氣象、特質特ニ地上及航空ノ各種戰鬥ニ及ボス影響

六 一般民情及對日態度等

至急

電報翻譯

暗

電報

翻譯者

高橋軍務日

陸

松田

師團司令部

15.11.18

電報受付

昭和15年

11月16日

日午前後

9時

55分

函館發

日午前後

15時

55分

電信局所受付

日午前後

16時

分

電報班受付

番着番受
號信號付

配布先 參・副・兵・經・醫・獸

師團司令部

宛 發信者

(津輕要塞司令部)

本文 津要參電 四號

幌筵 無線 轉火機 故障付

當分間 地方 通信 二行 連絡 之

日 報 あり 報告 又

註 中 教 通 知 あり 不 (公 事 等) 乃 じ

官 訓 譯 文 丙 陸 軍 省 陸 軍 部 陸 軍 監 督 部 陸 軍 監 督 部 陸 軍 監 督 部

陸 軍 省

參

電報翻譯紙

暗

暗・平

電報

翻譯者

齊藤軍

陸川司令部
28
普通

昭和十五年十一月二十一日

午後一時

五分

電信局所受付

電報班受付

發

番號

五六〇

配布先 參・副・兵・經・醫・獸・兵地・職・電

宛 發信者

小林部隊長

本文 北電第二三號

ニニ日ニ三日暴風雪アリ司令部ト

各砲台間、電話線全部

不通キナリ交通不能ノ為狀況

未ダ明ナラス被害ニ関シ後報ス

官副	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長團師
田	田	田	堀	田	田

(任主)

參

多書紙不常表

甲

暗

夕明ナラズ被善ニ関ニ後報ス
電話線全部不通、交通不能ノ為状既未

北々島小林部隊長ヨリ左記電報ニ接ス
二二、二三、二四日暴風雪アリ司令部ト各砲台間

發送番號 參謀長
北々島小林部隊長ヨリ左記電報ニ接ス
參謀長

師團長	司令官
參謀長	參謀部
主務部長	參謀部
高級副官	參謀部
主任	參謀部
淨寫主任	參謀部
附司令部	參謀部
兵器部	參謀部
經理部	參謀部
軍醫部	參謀部
獸醫部	參謀部
法務部	參謀部

15.11.25
警第600号

昭和十五年十一月二十五日 受發
發送主任

11 11 28
月 年 月
日 日
發 調

自昭和十四年五月 至昭和十五年八月 間 占守海峡通過外國艦艇一覽表 (國端崎燈台調査隊)

航行月日時	航行方向	隻数	摘要
昭和十四年			
5月	22日A6時頃 南へ	5隻	蘇聯艦隊 駆逐型約二千噸級一隻 快速艇型約五十噸四隻
	23日A2.30 北へ	5隻	蘇聯艦隊 二十日南へ通過同一艇ナリ看做サル
6月	10日P6.30 北へ	1隻	蘇聯艦 駆逐型並守艇約二千噸級一隻
	24日A6.10 南へ	1隻	蘇聯艦 駆逐型並守艇約一千噸級 煙筒一赤線一本アリ
7月	24日A4.0 南へ	1隻	蘇聯艦 約三千噸 艇体青色
8月	14日A9.0 北へ	2隻	蘇聯艦 艇名A11号ノ特殊艦一隻 潜水艦一隻
9月	3日P1.30 北へ	1隻	蘇聯艦 艇体赤色の約三千噸級 マスト一本
9月	20日A10.30 北へ	4隻	蘇聯艦隊 工作艇ヲ見受ル
10月	12日A10.0 東へ	1隻	蘇聯艦 駆逐型ニシテ約千五六百噸級 煙筒赤線ニ本アリ

昭和十五年

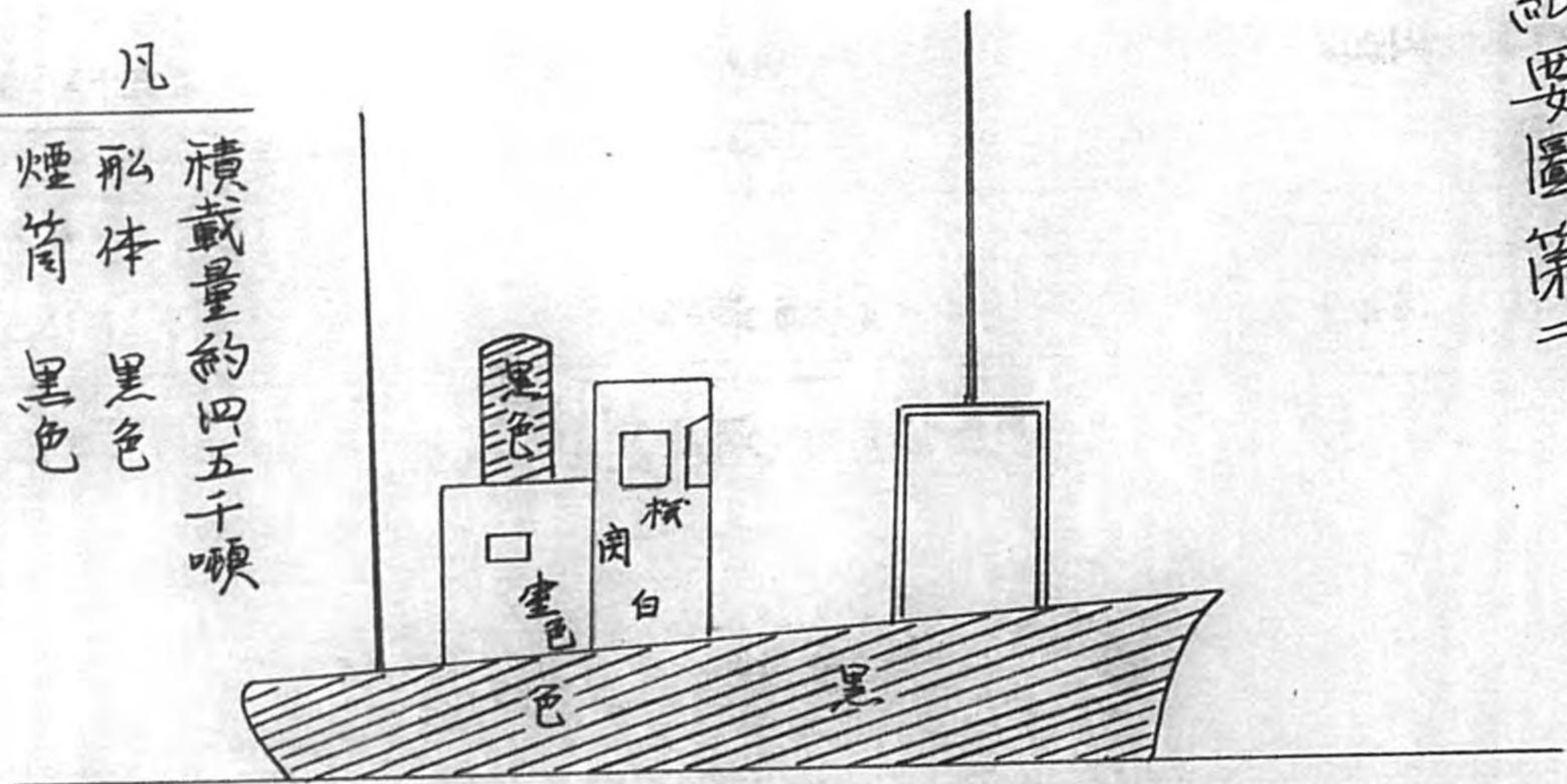
6月	2日A8時頃 占守(西)南下	1隻	蘇聯艦 駆逐型約一千噸 煙筒赤線一本 卜口ハツトアリ 占守海峡通過ス
7月	22日A9.40 北へ	1隻	国籍不明 約一千噸 煙筒赤線一本 日本艦ニリ 艇体塗色紅薄ニシテ (ソ聯艦ナリ認ム) 首 艦尾ニ砲一門ツツニ門ヲ有ス
8月	15日A10.30 東へ	1隻	国籍不明 七月二十日北上通過セシ同型ニシテ同艇ナリ 思料ス曰 (ソ聯艦ナリ認ム) 本艇駆逐艦ニシテ 信号旗ヲ掲ケツ同艇仲ニハサシ通過ス
	15日P2.30 北へ	3隻	国籍不明 駆逐型ニシテ 並守艇ナリ 見受ル (ソ聯艦ナリ認ム) 二千噸級一隻 一千噸級ニ隻

備考 1. 航行方向ハ下圖ニ如キ進路ヲ示ス



別紙要圖第二

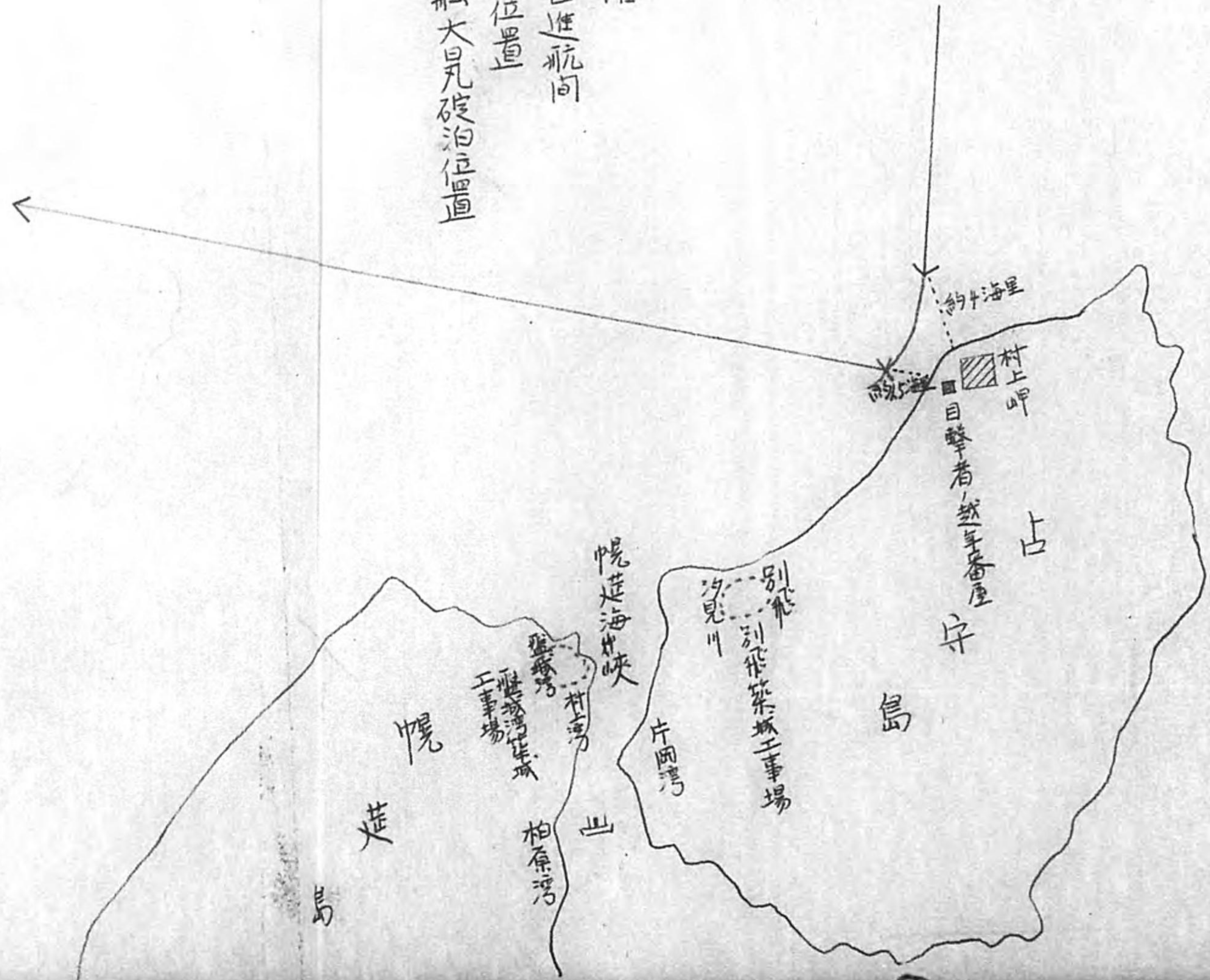
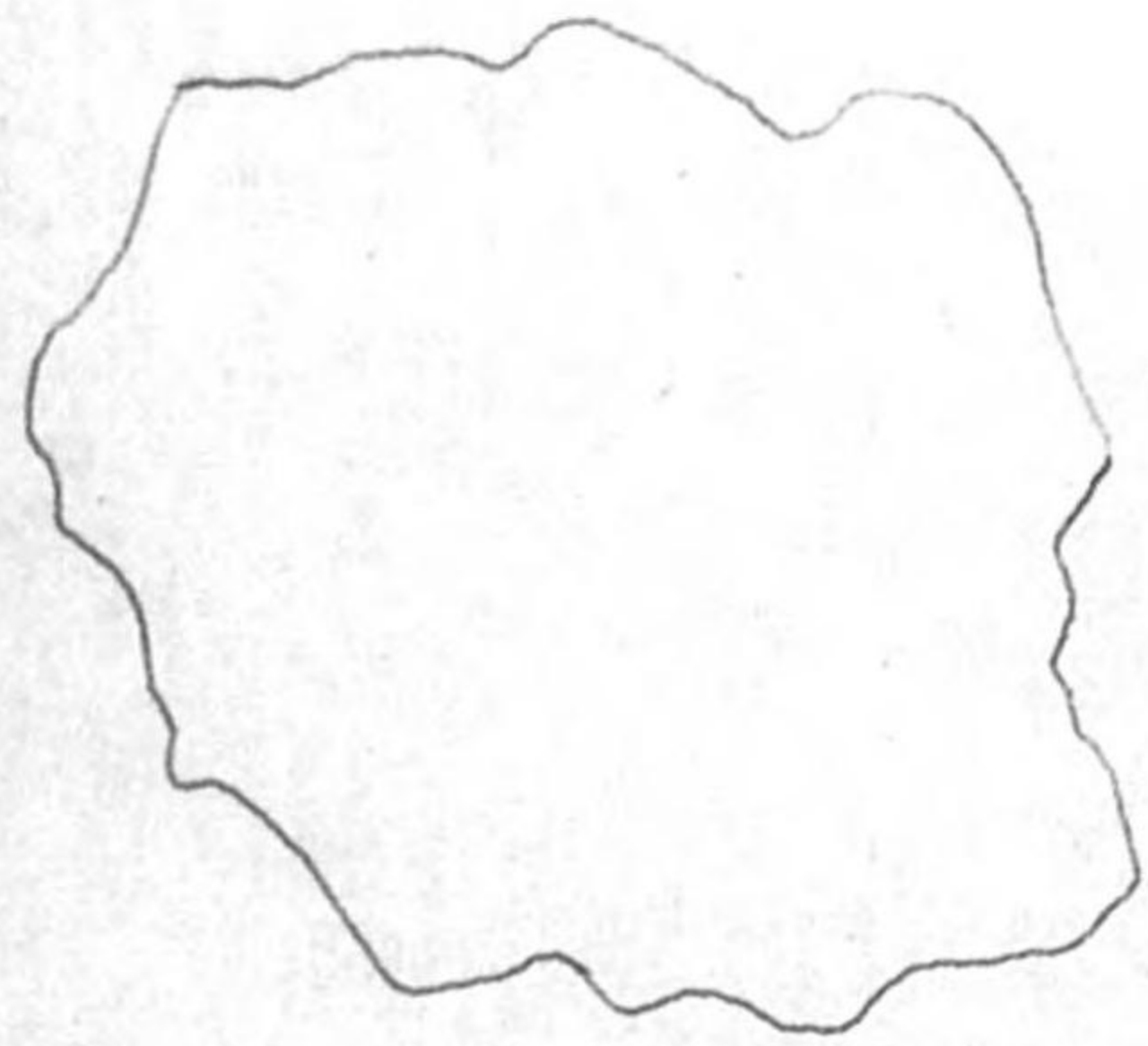
凡 積載量約四五千噸
 船体 黒色
 煙筒 黒色
 例
 アフターエンジン
 前マストアーチ型



圖取見行為侵犯海空氣船不明籍國

別紙要圖第一

- 凡例
- ↓ 航路
 - ┆ 航路進出
 - X 碇泊位置
 - 山 輸送船大見碇泊位置



リト言フ

三、其ノ他参考事項

一、當日ハ北千島ニ於テモ一年中稀ナル天候ニシテ気温約
 六十度無風ニシテ海上至ツテ穩カ一矣、雲モナキ晴天
 ナリシ船舶ノ航行ニハ最上ノ天候ニシテ針路ヲ誤ルカ如キ
 状態ニアラスシテ該侵入ハ計画的故意ノ行為ト思料
 セラレ之ヨリ先國端崎燈台所ニ於テ占守海峡通過ノ船
 舶通行調査ニ依レハ同型「ソ聯」船一隻ハ勘察加東
 海岸ヨリ占守海峡ヲ通過勘察加西海岸ニ向ケ北上セ
 シ事實アリテ或ハ同船ニシテ「ソト」ロパウロスキ「ヨリ
 「ソ」ラ「ラ」スタ「ク」ニ向ケ航行「ソ」聯「船」ヲ「ス」ヤ「ト

思料セラル

2、同日北千島臨時要塞建設、爲積込、陸軍輸送船大日
 丸ハ柏原灣ニ於テ荷揚中ニシテ別飛築城工事就労

別紙 第二

國籍不明汽船領海侵犯行爲ニ関スル件

一、目撃者並日時場所

目撃者

袴濱業部占守島村上岬蟹罐詰工場
物品建物監守人(越年者)

- 栗山 一郎 (當三十五年)
- 妻 ソメ (當三十四年)
- 長女 キミ (當十四年)

二、日時場所

昭和十五年九月十八日午後五時頃
占守島村上岬沖合約一海里半

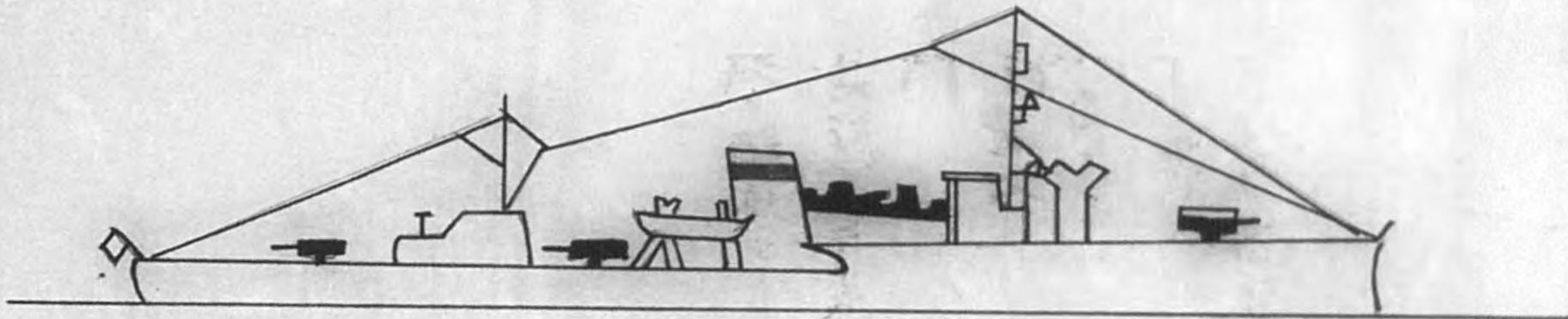
二、目撃者、状況

同漁場ハ八月二十日切揚終了シ目撃者一家ハ建物監守人トシテ残留(越年)シ居リ 九月二十五日同入ヨリ聞知セル處

ニ依テハ九月十八日午後五時頃(夕食前) 勘察加西海岸方面行ヨリ南下シ來リタル國籍不明汽船一隻ハ村上岬北方沖合約四海里附近ニ來リ速カヲ「スロー」ニシテ同岬約一海里半、領海ニ侵入シ尚約三海里南進シ船首ヲ南方ニ向ケ「エンジン」ヲ掛ケタル儘約十分碇泊シタル後進路ヲ西方阿瀬度島、方向ニ執、西進セリ(別紙要圖一)

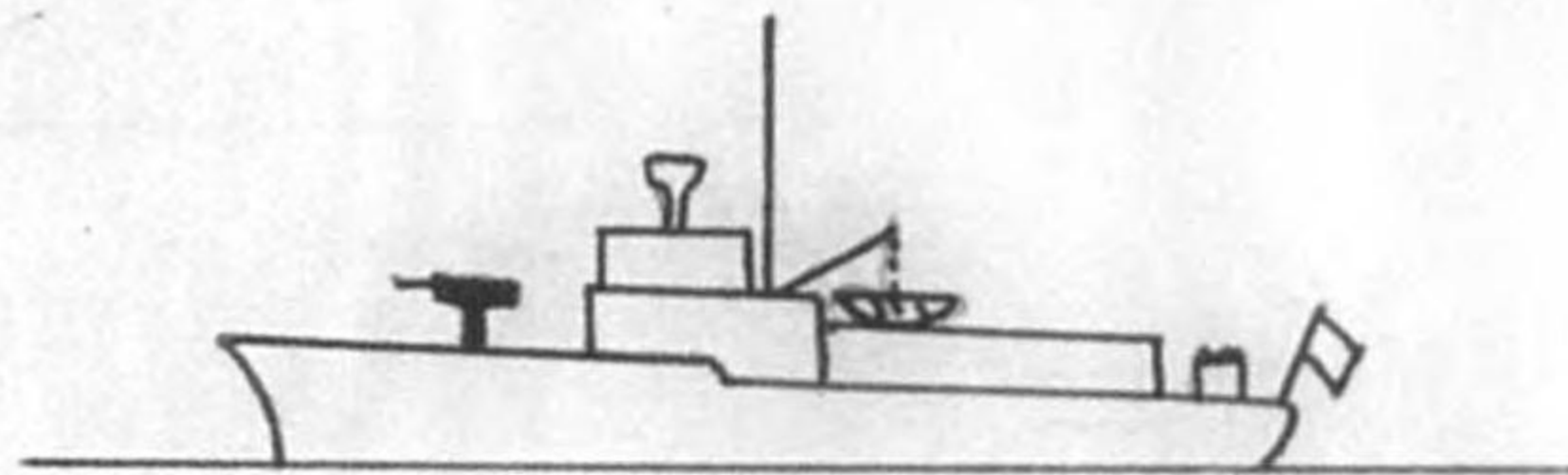
碇泊時目撃者セン狀況ニ依レハ船型ハ最新型ニシテ積載量約四、五千噸船体黒色(煙筒其、他、マーク不明)「アフターエンジン」ニテ前「マスト」ハ「アーチマスト」後「方マスト」ハ一本ニテ高サ前方、約三分一(別紙要圖第二)尚同船ハ航行中黒煙ヲ出サザルニ依リ重油船ナリト思料セラレ甲板上前方ニ乗組員ニ三名集合シ雙眼鏡ヲ持テ盛ニ南方(占守島別飛並幌楚海峡)ヲ遠望シアリタ

別紙要圖



先頭ニ進行セル駆逐型
艦艇見取圖

約千五、六百噸
艇体 灰色
煙筒 赤線一本帯
砲 三門
並視艇キーローフ艇似セリ



後進セル四隻、快速艇見取圖

約五、六十噸
艇体 灰色
時速約三十哩以上
砲 一門
アフターエンジン(ディーゼルエンジン)
ペーカ一艇ニ酷似セリ

第三

以上第一ニヨリ略ニ其蘇聯ノ行動ニ関シ疑念ヲ抱キ居タル
モ後日第二ニ調査ニヨリ日時ノ関係ヨリ綜合判断シ
全一事實ナルコト判明セリ即チ十九日午後「カムチヤガ」
西海岸ヨリ急速度ヲ以テ南下シ幌筵島壘山附近
迄偵察シ歸還シタルモノナリ

附記

當日ハ輸送船大日丸(五八〇ト)サ荷役終了シ十一時
三十分柏原ヨリ幌筵島西海岸ヲ経テ小樽ニ向ヒ
出帆セシメタル後ナルヲ以テ敵艦ニハ發見セラレサルモ
ノト判断セララル

蘇聯側助察加漁業監視船(快速艇)ノトヨボヨボナキ

第二、~~占守海峽通過時目撃~~ 史料ニモル、航行状況圖ナシ

一、目撃者並日時場所

人、占守島城ヶ崎(居住者)

小宮山 円次(當十八年)

昭和十五年九月十九日午後三時半頃

助察加西海岸沖合ヲ南下セシヲ目撃ス

二、國端崎燈台吏員

松本 松太郎(當三十九年)

外吏員五名

昭和十五年九月十九日午後三時五十分

占守海峽通過時目撃

二、目撃時、状況

右者等、言ニ依レハ九月十九日午前十時過頃助察加西

海岸上空ヲ南下飛行スル蘇聯飛行機ニ機ヲ認メ同日

午後三時半同西海岸沖合ヲ南下スル艦艇五隻先頭

一隻ハ駆逐型艦艇ニシテ續イテ小型艦艇四隻眞一文字ニ

快速カラ以テ南下スルヲ認メタリ

先頭駆逐型艦艇ハ約一千五百噸級ニシテ船体灰色煙筒

ニ赤色一本ヲ帯ヒ砲ハ前、中、後ト各一門ツツ三門ヲ有シ其他

船型ヨリ察スルニ監視船キーロフ、或ハセルゲンスキーナリト

認メラレ

後進、四隻ハ約五、六十噸級ニシテ中央ニマスト一本、前方ニ

砲一門ヲ有シボート一アリ其他船型ニ依リテ察スルニペーカ

艇(双方兵艦型ヲ示シタルニ之ニ酷似スルヒ曰語レリ別級

要圖、如シ)ナリト史料セラレ占守海峽ヲ南ニ向ケ通過

セリ

別紙第一

蘇聯勘察加漁業監視艇快速艇幌筵海峡沖航行狀況ニ関スル件

第一

一、目撃者者並目撃場所

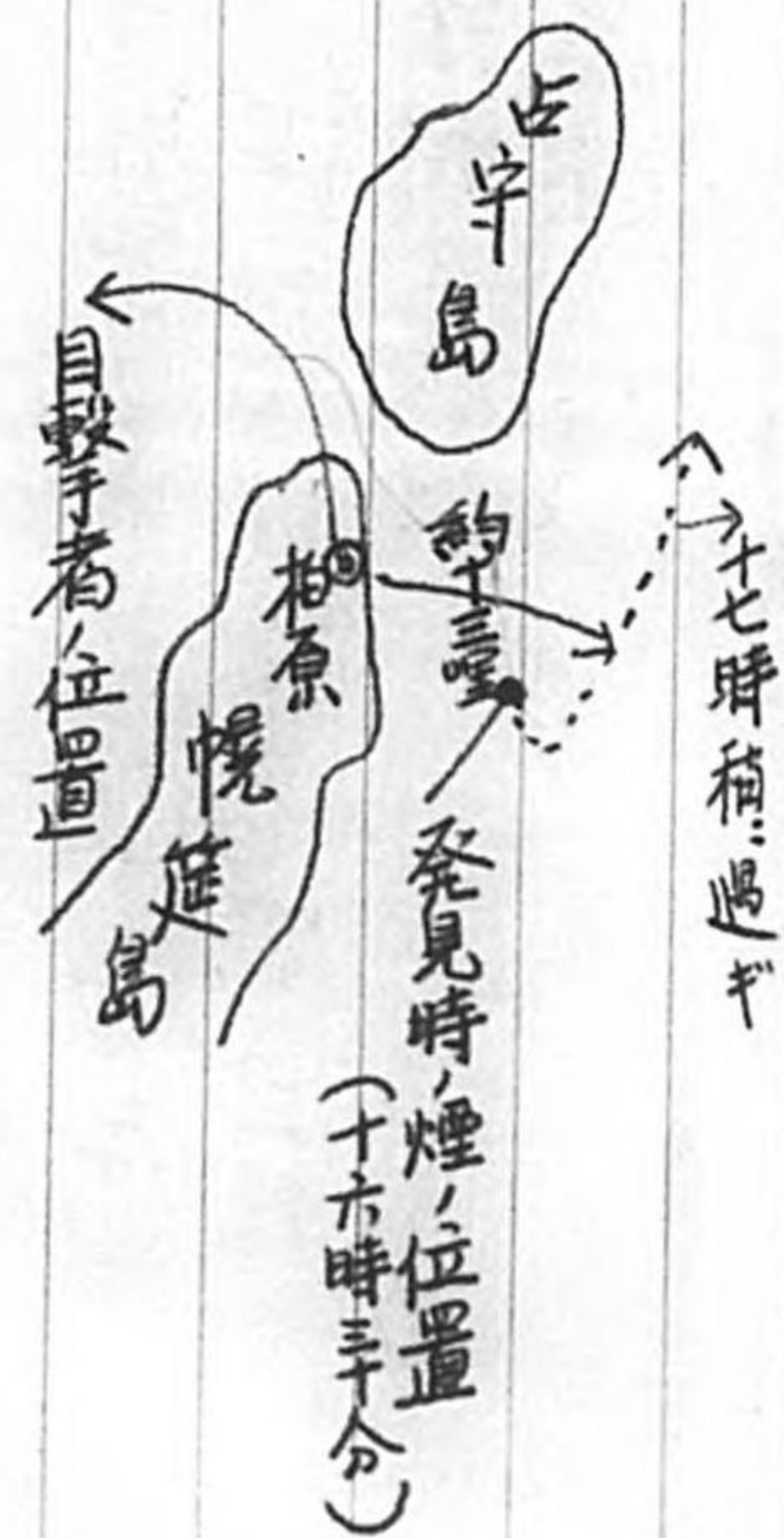
1. 柏原埠頭事務所ニ於テ輸送業務指揮中、竹内佐
以下若干名

2. 幌筵海峡東南方沖約十二三哩

二、目撃時、狀況

九月十九日十六時半頃幌筵海峡東南方遙カ、沖
ニ南下中、黒煙ヲ認メ注視シ居ル内黒煙ハヤカテ
北方向ケ極メテ急速力ニ移動シ十七時稍過キ占
守島、蔭ニ次ヲ波沈セリ
其、速力極メテ迅速ナルヲ以テ遠距離ニハ非サルヲ
判断シ船舶ニ非スシテ駆逐艦ナルヘント判断セリ
航行狀況左圖、如シ

航行狀況略圖



極

秘

陸軍

幌筵島ニ於ケル我軍企圖ニ對スル

蘇聯側ノ態度ノ觀察

判決

蘇聯側ニ於テハ漢期終了後ニモ拘ラス當方面ニ頻
繁ニ行ハル、特異、暗号電信ヲ探知シ尚大型船舶
ノ航行等ヨリ既ニ當方面ニ疑念ヲ抱キ狀況偵察
ノ爲メ計画的積極的諜報行爲ニ出テツツアルモト
判断セラル

理由

別紙第一、第二ニヨル事實ニヨリ明カナリ

處置

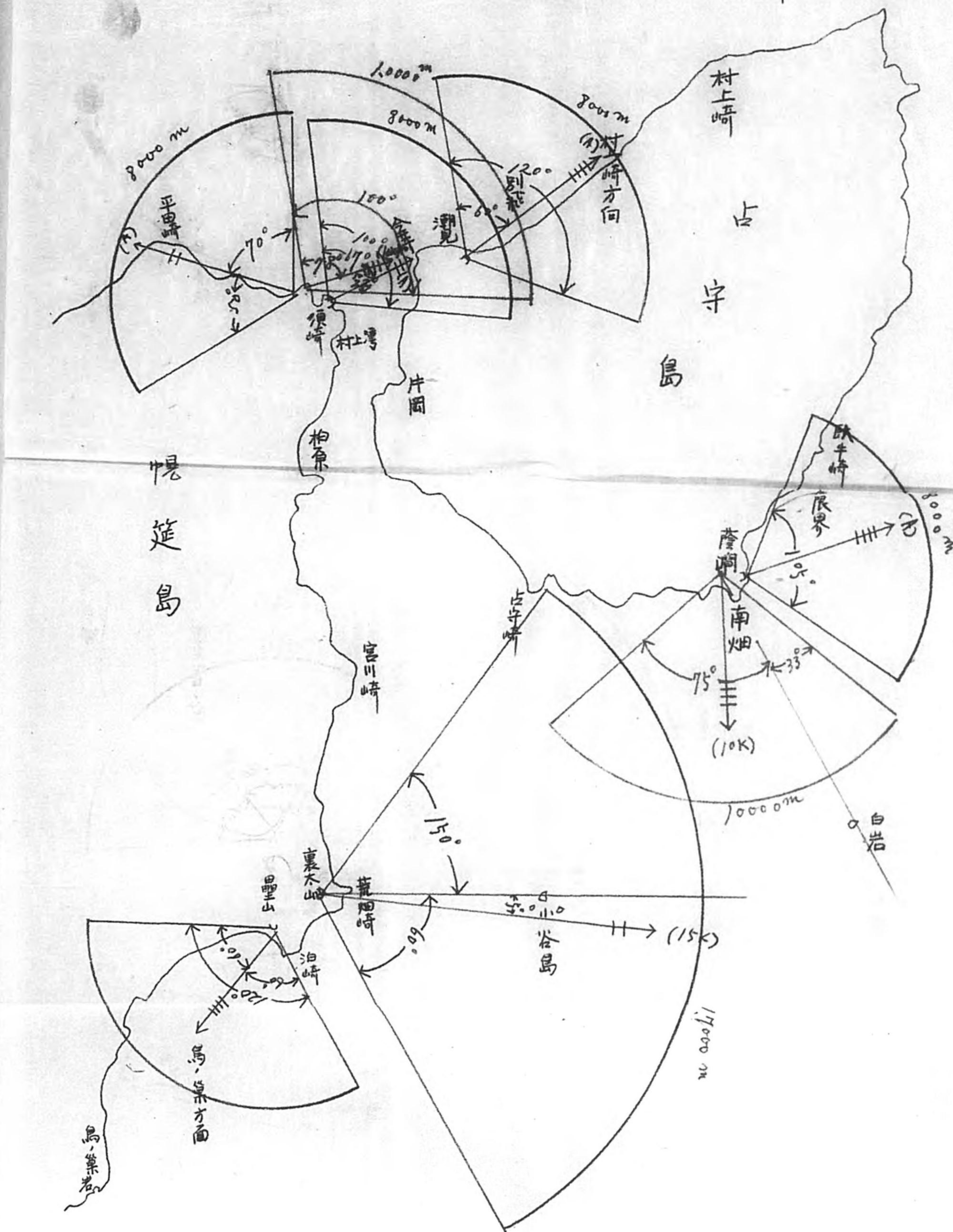
將來更ニ此種企圖ニ出ツルコトアルベキヲ豫想シ直ニ
進跡偵察ノ爲メ裝備(機關銃、輕砲)ヲ有スル速力三
哩以上ノ快速艇ノ常置ヲ必要トス

〇〇要塞火砲配備要圖

1 / 200,000



別紙要圖



第四、備付銃砲及彈藥一覽表

場所	備付銃砲	備付		彈藥
		榴霰彈	榴彈	
柏原	三年式機関銃四 (高射用具共)	破甲榴彈	榴彈	三年式機関銃四 銃袋已 六〇、〇〇〇
壘山	四式野砲二 三年式機関銃四 (高射用具共)	榴霰彈	榴彈	六〇、〇〇〇
隆澗	三年式野砲四 三年式機関銃二 (高射用具共)	榴霰彈	榴彈	六〇、〇〇〇
別飛野砲陣地	三八式野砲四 三年式機関銃二 (高射用具共)	榴霰彈	榴彈	六〇、〇〇〇
聖城野砲陣地	三八式野砲二	榴霰彈	榴彈	六〇、〇〇〇
須崎野砲陣地	三八式野砲二	榴霰彈	榴彈	六〇、〇〇〇
聖城野砲陣地	三八式野砲二	榴霰彈	榴彈	六〇、〇〇〇
壘山砲台	四式十五加二	榴霰彈	榴彈	六〇、〇〇〇

備考、

一、本表ノ外小銃廣包一銃宛歩兵三〇〇重砲兵二〇〇ヲ備付ク
ルモノトス

二、砲台彈藥庫及彈藥支庫ニ概不要塞防禦教令草案ニ
示ス標準ニ從ヒ收容ニ爾餘、彈藥ハ彈藥本庫ニ入ル
モノトス

要塞火砲配備要圖

第五、別紙要圖、如シ

陸軍

敵ヲ撃滅ス
第三 守備部隊配置表

地区	部隊	要塞	要塞	要塞	要塞	要塞	要塞	要塞	陸軍
相原	司令部	一大隊 三中队	一中隊	一中隊	二中队	一中隊	一中隊	一中隊	病院
壘山		一中隊	聯隊本部 一中隊						
蔭澗		一中隊	一中隊 (子名)						
別飛		一中隊	一中隊						
磐城崎									
片岡									

第一、幌筵臨時要塞、任務

一、海軍ト協力シ幌筵海峡ニ侵入スル敵艦艇ヲ阻止スルト
共ニ成ルベク全各地附近ヲ確保ス
第三、砲台及各砲兵陣地設置、目的

一、壘山地区

イ、裏太山砲台

幌筵海峡南口附近ニ行動スル敵艦艇ヲ撃滅シ其
海峡侵入ヲ阻止ス

ロ、壘山野砲陣地

朝日湾ニ侵入上陸ヲ企圖スル敵ヲ撃滅ス

二、蔭澗地区

イ、蔭澗十加陣地

裏太山砲台ト相俟テ幌筵海峡南口附近ニ行動ス
ル敵艦艇ヲ撃滅シ其、海峡侵入ヲ阻止ス

ロ、諏野崎野砲陣地

中川湾ニ侵入上陸ヲ企圖スル敵ヲ撃滅ス

三、別飛地区

別飛野砲陣地

別飛附近ニ侵入上陸ヲ企圖スル敵ヲ撃滅ス
ルト共ニ村上崎方向ヨリ前進スル敵ヲ阻止ス

四、磐城崎地区

イ、磐城崎十加陣地

幌筵海峡北口附近ニ行動スル敵艦艇ヲ撃滅シ
其海峡侵入ヲ阻止ス

ロ、須崎野砲陣地

北方ヨリ幌筵海峡ニ侵入スル敵艦艇ヲ阻止ス

ハ、磐城崎野砲陣地

磐城崎西方海岸一帯ニ侵入上陸ヲ企圖スル

軍事機密 燒却

幌筵臨時要塞，概要

目次

- 第一、幌筵臨時要塞，任務
- 第二、砲台及各砲兵陣地設置，目的
- 第三、守備部隊配置表
- 第四、備付銃砲及彈藥一覽表
- 第五、別紙要圖

自昭和十四年九月至昭和十五年九月間古宇海峡航行外國船舶一覽表 (國端埼燈台調査=依ル)

航行月	日 時	航行方向	國 籍	噸 級	特 徴
九 月	7日 P. 1時25分	南へ	不明外國船	=本マスト中型	煙筒=赤線
	7日 P. 3.45	北へ	英國船	=	
	22日 P. 1.20	南へ	不明外國船	=本マスト中型	
	25日 A. 10.25	南へ	英國船		
	28日 P. 4.00	北へ	米國船		汽船
	29日 A. 8.10	南へ	ソ聯國船	=本マスト大型	
	30日 P. 1.50	北へ	不明外國船	=本マスト大型	
	" P. 2.35	南へ	不明外國船	=本マスト大型	
十 月	2日 A. 7.25	南へ	不明外國船	=本マスト大型	
	4日 P. 2.40	北へ	不明外國船	=本マスト中型	
	" P. 4.10	南へ	ソ聯船		
	7日 A. 10.30	南へ	英國船	=本マスト大型	
	7日 P. 3.50	北へ	不明外國船	=本マスト中型	
	9日 A. 11.10	北へ	不明外國船	=本マスト大型	
	12日 P. 3.50	東へ	ソ聯船	=本マスト中型	
	24日 A. 10.30	北へ	同上	同上	
	" P. 1.00	南へ	同上	同上	
	26日 P. 3.50	南へ	米國船	=本マスト大型	
27日 P. 2.00	東へ	米國船	=本マスト小型		
30日 A. 10.20	北へ	米國船	=本マスト中型		
十 一 月	5日 A. 8.00	南へ	ソ聯船	=本マスト中型	
	13日 A. 7.45	南へ	ソ聯船	=本マスト中型	CNNR CNNR 船体青 煙筒(何本)煙筒黒白線
	" P. 2.30	北へ	ソ聯船	=本マスト大型	
	16日 A. 7.25	北へ	米國船	=本マスト大型(700噸)	5) スタンダード・タンク船
	20日 P. 0.45	南へ	ソ聯船	=本マスト中型	赤線一本
	28日 A. 6.50	北へ	ソ聯船	=本マスト大型	商船煙筒=赤線
十 二 月	14日 P. 4時30分	北へ	不明外國船	=本マスト中型	
	16日 A. 8.30	北へ	不明外國船	=本マスト小型	
昭和十五年					
一 月	10日 A. 10時15分	北へ	ソ聯船	=本マスト大型	船体黒煙筒青線
	28日 P. 0.20	北へ	ソ聯船	=本マスト大型	煙筒黒赤線?)
二 月	29日 P. 2.10	北へ	米國船?	=本マスト中型	船体青塗煙筒黒白線
三 月	6日 A. 9.30	南へ	ソ聯船	=本マスト小型	
	6日 P. 1.00	北へ	ソ聯船	=本マスト中型	
	18日 P. 4.00	北へ	ソ聯船	=本マスト中型	
	24日 A. 6.50	南へ	ソ聯船	=本マスト小型	
四 月	17日 P. 5.25	南へ		=本マスト中型	船体黒白線=本煙筒黒
	2日 P. 2.25	南へ	ソ聯船	=本マスト中型	船体?, 東へ北上ス

47
487 IRI

十一月	16日A. 7.25	北へ	米國船	三本マスト大型(7000)	5) スタンダード・タンク船
	20日P. 0.45	南へ	ソ聯船	二本マスト中型	赤線一本
	28日A. 6.50	北へ	ソ聯船	二本マスト大型	高船煙筒=赤線
	14日P. 4時30分	北へ	不明外國船	二本マスト中型	
	16日A. 8.30	北へ	不明外國船	二本マスト小型	
昭和十五年					
一月	10日A. 10時15分	北へ	ソ聯船	二本マスト大型	船体黒煙筒青線
	28日P. 0.20	北へ	ソ聯船	二本マスト大型	煙筒黒赤線?)
二月	29日P. 2.10	北へ	米國船?	二本マスト中型	船体青塗煙筒黒白線
三月	6日A. 9.30	南へ	ソ聯船	二本マスト小型	
	6日P. 1.00	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	
	18日P. 4.00	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	
	24日A. 6.50	南へ	ソ聯船	三本マスト小型	
四月	17日P. 5.25	南へ		二本マスト中型	船体黒白線二本煙筒黒
六月	20日P. 2.25	南へ	ソ聯船	二本マスト中型	ロバツカ ¹ 東へ北上ス
	20日A. 9.30	北へ	ソ聯船?	二本マスト大型	海峡北へ向ケ煙筒下白
	21日P. 2.50	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	煙筒黒白線一
	22日P. 0.50	北へ	ソ聯船	二本マスト大型	煙筒黒赤線一
	23日A. 11.35	南へ	ソ聯船	二本マスト中型	煙筒=白線一
	29日A. 6.15	北へ	不明外國船	二本マスト中型	カムサツカ西岸北上
七月	5日P. 4.20	南へ	ソ聯船	二本マスト大型	船体灰色
	20日A. 7.55	西へ	ソ聯船	二本マスト中型	
	27日P. 1.30	東へ	ソ聯船	二本マスト中型	
八月	1日P. 9.50	西へ	ソ聯船	二本マスト大型	
	7日P. 4.30	東へ	ソ聯船	二本マスト大型	
	12日P. 4.50	北へ	ソ聯船	二本マスト大型	
	15日P. 2.20	東へ	ソ聯船?	二本マスト中型	
	15日P. 3.40	北へ	ソ聯船	二本マスト小型	
	20日P. 1.00	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	
	21日P. 5.30	北へ	ソ聯船	二本マスト小型	船体赤色 煙筒一本  (カトニ)
	31日P. 2.30	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	
九月	1日A. 7.00	東へ	ソ聯船	二本マスト中型	
九月	13日P. 10時15分	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	煙筒=赤線一
	18日P. 2.50	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	アターエンジン

備考

1. 北へ ハ占守海峡通過北上セリ示ス
 南へ ハ同 南下セリ示ス(後勘察加東海岸=向ケ北上シタル中否
 ハ不明ナルモ殆ハ東海岸向ケ北上スルモトス) 下圖=示ス
 東へ ハ同東航セリ示ス
 西へ ハ同西航セリ示ス

2. マストノ数及型ハ船ノ噸数級ヲ示シ 小型ハ 1000噸以下
 中型ハ 1000-5000噸迄
 大型ハ 5000噸以上



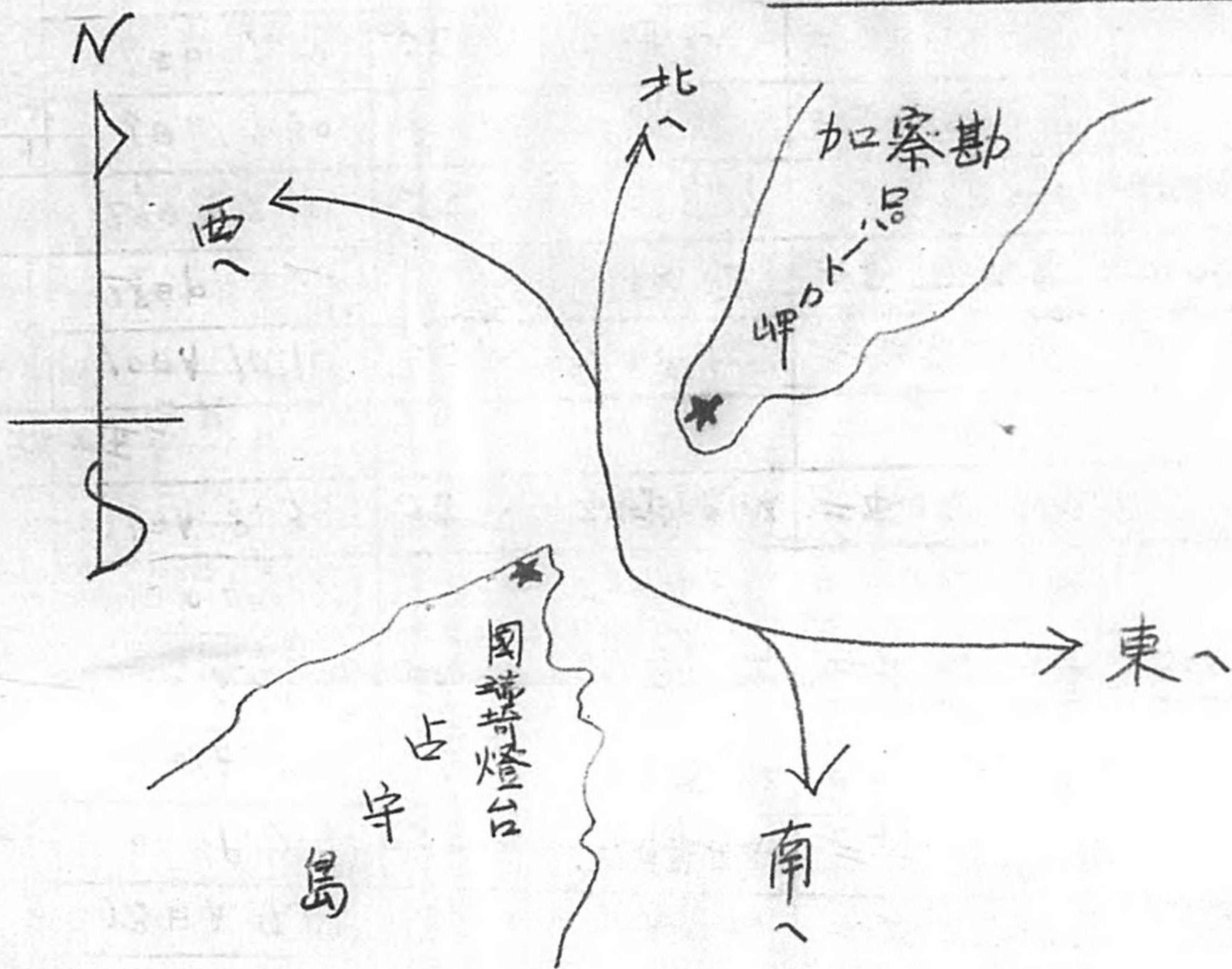
47
IMI 497

七月	20日A 7.55	西へ	ソ聯船	二本マスト中型	
	27日P 1.30	東へ	ソ聯船	二本マスト中型	
八月	1日P 9.50	西へ	ソ聯船	二本マスト大型	
	12日P 4.30	東へ	ソ聯船	二本マスト大型	
	12日P 4.50	北へ	ソ聯船	二本マスト大型	
	15日P 2.20	東へ	ソ聯船?	二本マスト中型	
	15日P 3.40	北へ	ソ聯船	二本マスト小型	
	20日P 1.00	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	
	21日P 5.30	北へ	ソ聯船	二本マスト小型	融体シロ色 煙筒一本 (注)
九月	31日P 2.30	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	
	1日A 7.00	東へ	ソ聯船	二本マスト中型	
九月	13日P 1時15分	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	煙筒=赤線一
	18日P 2.50	北へ	ソ聯船	二本マスト中型	アターエンジン

備考

- 北へ ハ占守海峡通過北上セリ示ス
- 南へ ハ同 南下セリ示ス(後勘察加東海岸=向テ北上シタル中否ハ不明ナルモ殆ハ東海岸向テ北上スルモトス)下圖=示ス
- 東へ ハ同東航セリ示ス
- 西へ ハ同西航セリ示ス

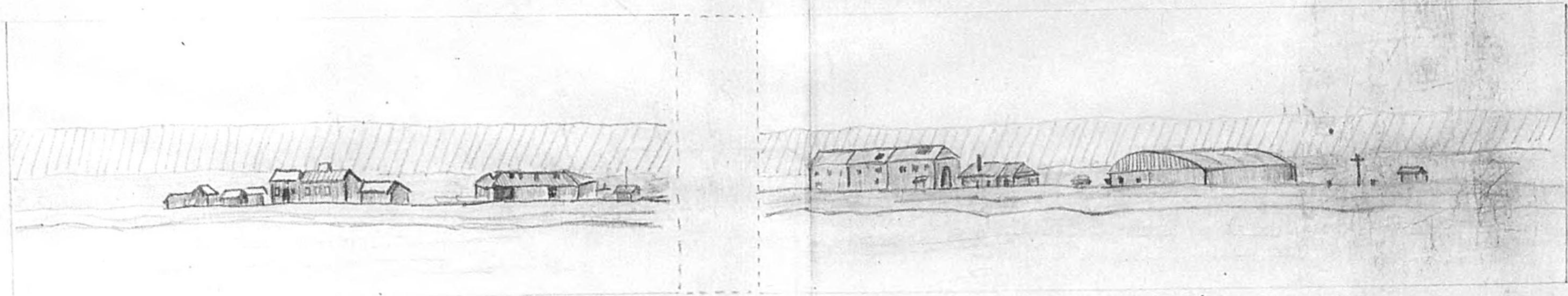
2. マストノ数及型ハ船ノ噸数級ヲ示シ
 小型ハ 1000噸以下
 中型ハ 1000-5000噸迄
 大型ハ 5000噸以上



ホリ江の飛行場

註

下圖ハ「カムチャツカ西海岸
 飛リシエレンツク」飛行場ノ全
 景ニシテ今年度我漢航
 蘇聯官憲ニ拿捕セラレ
 タル爲護衛駆逐艦支拂
 ニ赴キタル降巨岸ニ墮
 海上ヨリ撮影セル寫眞
 ノ模寫ナリ



↑ 廳舎

↑ 格納庫

↑ 附屬建物トシテハ食務

↑

格納庫則チ S35W4 哩

參謀部	官副乙	官副甲	官副級高	長謀參	長團師

全理部

獸良部

昭和一九三〇、

山林部隊 香野 損

~~部~~ 部連絡希望事項

渡邊 軍曹

陸軍

一、^{（ヲ速ニ）} 故定セラレタル
 一、要塞地帯 作製見見至急
 一、船便有ル毎ニ 新圃（古新圃ニテモ可） 雜誌等
 送付方願度（此ノ件ニ関シ津輕要塞司令部 別官殿ト
 元連絡セリ）

陸軍

參謀部關係

- 一 砲台連絡ノタメ(冬季間)トナカイヲ使用ニタキニ付トナカイ使用ノ調書參考書類送付相成度
- 一 スキー(ストリ)參考書、スキー草案送付相成度
- 一 兵用地圖ノ規定送付相成度
- 一 北海道防空規定(諸規則)類送付相成度
- 一 國民防空讀本一冊送付相成度

經理關係

- 一 ゴム長靴ヲ円滑ニ配給相成度
- 一 縫靴修理材料ヲ豊富^{取給}ニ配給相成度
- 一 スキー(ストリ)配給相成度
- 一 給養關係(急ヲ要スルモノ)電報ニテ通知相成度
- 一 補給糧秣ノ價格、米、麦指定相場至急電報
- 一 ニテ通知相成度

暗

暗

4572

師團長	師團長
參謀長	參謀長
司令部附	司令部附
副官部	副官部
參謀部	參謀部
兵器部	兵器部
經理部	經理部
軍醫部	軍醫部
獸醫部	獸醫部
法務部	法務部

汽船備役二團スル
件

旭參電第一〇號

宛名

北千島

要塞司令官

出差名

參謀長

北電第一三三号ノ件
備船ノ結果報告セラシ度

陸軍

電報班
15.12.14
發送主任

昭和15年12月

受發
日分時日月

官副謀參	官副謀參	官副謀參	官副謀參	官副謀參	官副謀參
------	------	------	------	------	------

電報翻譯紙

暗・平 電報

翻譯者 中井軍曹

陸

川師司令部
15.12.14
發送主任

昭和15年	昭	和
12月11日	日	午
午前	後	後
11時	10時	55分
12時	50分	ハコダテ
30分	5分	電信局所
電報班	電	報班
受付	受	付

配布先 參・副・兵・醫・獸・兵地・職・電

師團長 宛 發信者 北千島要塞司令官

本文 北電第一三號

暴風被害ノ件報告

昨九日來ノ暴風(風速三五米)ノタメ

北千島水産ヨリ借用中ノ機艇

(汽船)大破セリ人員馬匹異狀ナシ

代船備船致度ニ付許可セラシ度

詳細ヲ便船ニ依リ後報ス

送達第_レ號

宛名
略称

旭師司

送年月日

昭和

昭和拾

年

十二月卅日

月

日

北要度第八號

昭和十五年度狀況報告
北島町
意見

各電部

軍事極秘

北要度第一八號

昭和十五年年度狀況報告 並ニ北千島
ニ關スル意見提出ノ件報告

昭和十五年十二月卅日

北千島要塞司令官 小林俊



登殿

旭川師團長 國崎

首題ノ件別冊ノ通各壹部

提出ス

官副	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長團師

任主

参



15.12.9.
親展受付

軍事極秘

第貳號

極密

昭和十五年度狀況報告(第一號)

北千島要塞司令部

加師長

配布区分			
番部	配布先	年月	送附
第一席	陸軍大臣		
第二席	畑川師團長		
第三席	北千島司令部		
第四席	控		

目次

第一、編成完結以後行動、概要

第二、要塞配備、現況

第三、昭和十五年度防禦配備、就キテ

第四、情報、北千島、關スル兵要地誌

第五、交通及通信

第六、軍紀風紀及服務

第七、內務及教育

第八、兵器

第九、防禦營造物

第十、經理

第十一、衛生

第十二、事務

結言

附表

第一、北千島越年者調

第二、昭和十五年十月教育企畫

第三、昭和十六年度教育企畫

第四、主要兵器彈藥一覽表

第五、北千島要塞司令部職員表

附圖

第一、北千島要塞配備要圖

第二、昭和十五年度防禦配備要圖

第三、北千島要塞通信要圖

第一編成完結以後行動、概要

北千島要塞司令部ハ昭和十五年十月二十三日
 函館ニ於テ編成完結ニ十七日司令官着任
 二十八二十九兩日荷物搭載三十日司令官以下
 七十四名明治丸ニ乗船同日函館出帆幌筵島
 柏原ニ向ヒ進航ス
 本要塞司令部ノ業務ハ同日開始シ其旨ヲ
 關係官廳ニ通報ス
 十一月三日明治丸ハ柏原灣ニ入港シ同日
 司令部ハ柏原ニ上陸シ任地ニ就ク
 一同北境第一線警備ノ光榮ニ感激シ
 志氣頗ル旺盛ナリ
 爾後先在ノ築城部支部長多久大佐ト
 協議シ左記ノ如ク現地ニ就キ兵器及

防禦營造物ノ引繼ヲ了ス

十一月十三日	磐城崎地區
十一月十四日	別飛地地區
十一月十六日	蔭ノ澗地區
十一月十七日	墨山地區
十一月十八日	柏原地區

即チ十一月十八日ヲ以テ北千島要塞全般
 ニ亘リ本年度防禦營造物竣ニ兵器ノ
 申繼ヲ完了セシヲ以テ陸軍大臣及旭川
 師團長ニ電報ヲ以テ報告ス
 十一月二十日マデニ逐次要員ノ不足ヲ補充シ
 現在ノ所技手二名ノ欠員ヲ除キ七十九名
 ヲ以テ北千島要塞司令部ノ陣容ヲ整フ

第二要塞配備ノ現況
附圖第一、如シ

陸軍

第三昭和十五年度防禦配備ニ就キテ
本年度戰備計畫ハ取敢エス附圖第二
、如ク豫定ス

陸軍

第四情報ニ北千島ニ關スル兵要地誌

本項ハ參謀本部報告書ニヨルノ外并上ヨリ
瞥見セシ所見ヲ述ブ

一、情報ニ就キテハ目下得ル所ナシ
二、地勢及地形

占守島ト幌筵島トハ地形全然反對ニシテ
幌筵島ハ高山塊城タルニ反シ占守島ハ
平坦ナル丘阜連リ全島ニ亘リ一大波
狀地ヲ形成シ且北側一帯ノ海岸ハ砂丘
多ク上陸可能ナル處多シ
而シテ地上各所ニ繁茂シアルはんの木及
遍松ハ大ナルモノ少ナク展望射撃ヲ
妨ケサルモ人馬ノ通過困難ナリ
然レトモ冬季積雪深キ時ハ棧

スキー等ヲ以テセハ夏季ニ比シ却ツテ
自由ニ行動シ得ルニアラザルヤト判断セラル
中央附近ニアル濕地帯ノ狀況ハ明カナラ
ズ即チ幌筵島ハ大兵ノ使用困難
ナルモ占守島ハ東西約十六料南北約
二十料ニ亘ル廣漠タル連崗地ニシ
テ時機ニヨリ又兵種並ニ裝備ニヨリ
兵力ノ使用頗ル容易ナル場合アリト
認メラル

三、海上

海上ハ一般波荒ク大船ヲ岸壁ニ接着シ
得ル如キ突堤ノ構築困難ナルモノ如ク
小舟ヲ以テスル困難ナル揚陸ヲ敢行セサル
ヘカラサルモノ多シ

而シテ幌筵海峡内ハ比較的平穩ニシテ
敵及風浪ニ對シ掩護確實ナルヲ以テ
片岡灣附近ニ揚塔設備ヲ完備スルハ
一案ナルヘシ

目下ノ狀況ニ於テハ上陸ノ為多數ノ小舟
ヲ準備スルヲ要ス

四、氣象

本職渡島以來ハ末夕大風ナキモ一般ニ
樹草小ニシテ捻轉倭少ナルヨリ察シ
文獻ノ如ク寒氣及風雪ノ強キコトヲ察
セラル

五、補給及住民

北千島ノ住民ハ占守島ニニ家族定住
スルノミニシテ他ハ夏季漁撈ノ為此地方

ニ出稼スルモノ又ハ官廳奉職者ナリ
而シテ冬季越冬スルモノハ頗ル僅少ナリ
即チ附表第一ノ如シ

第五 交通及通信
交通通信ハ海陸共ニ頗ル不便ナリ
其概要次ノ如シ
一 交通

海上交通

北海道本上ト北千島間ハ四月乃至十月
ハ海上比較的靜穩ニシテ要スレバ
三十噸級ノ小船ト雖トモ獨航シ得ルモ
十一月乃至三月ノ間ハ海上風波荒ク
千噸級以下ノ船舶ハ航海困難ナリ
從ツテ此期間ハ交通杜絶シ稀ニ
中央氣象台ノ凌風丸(約一ニ〇〇噸)
農林省ノ白鳳丸(約五〇〇噸)來航スル
コトアリト云フ 即チ漁獲期タル

四月乃至十月ニハ便船ニヨル交通
可能ナルモ冬期ハ之ヲ豫期スルヲ
得ズ 要塞開設セラレタル今後ハ
軍ノ命令スル航路ヲ以テ冬期ト
雖トモ交通ヲ可能ナラシメ人馬
物件並ニ郵便物ノ輸送ニ支障
ナカラシムルヲ要ス
幌筵海峡附近ニ於テモ海上ノ狀況
前述ノ如キト出稼漁撈從業者ハ
冬期本上ニ歸還スル爲メ海上ニ
浮ブ小舟サハ皆無トナル爲海上ノ
交通意ノ如クナラズ 特ニ柏原ヨリ
各砲台ニ至ル輸送ハ現在ニ於テハ
殆ンド海路ニ依ラザルベカラザルヲ以テ

要塞内ノ交通連絡頗ル困難ナリ
目下ハ當部ニ於テ ランチ一隻傳馬船
一隻及舟午五名ヲ雇傭シ辛クジテ
一部ノ用ヲ辨ジアルノミ
將來海上連絡並ニ輸送及海上監視
ノ為メ有能ナル快速艇及汽船ヲ

陸上交通

目下陸上ハ積雪アリテ強風時ニ
至リ特ニ山地ハ積雪多クシテ道路
ヲ埋ムルモ多シ冬期ハ特ニ積雪
及吹雪多ク徒步行動ヲ許サザル
コト多シト云フ
柏原司令部ヨリ各砲台間へ陸路

ハ歩涉徑アリト稱スルモ單ニ孤熊ノ
走路又ハ越年漁夫ノ締ニ通行スル
モノニシテ到底軍用トシテ兵員器材
並ニ砲ヲ容易ニ通ズベキモノニ非ズ
各地區ハ共ニ兵舎砲台間ニ若干ノ
自働車道路ヲ有スルモ降雨積雪
等ニ際シテハ勿論常時ニ於テモ
土地濕潤ノ為行動不能ノ場合
多キ憾アリ
即チ陸上交通ハ夏冬共ニ困難
ナルヲ一般トス而シテ速ニ軍用ト
シテ開設ヲ要スルト認ムベキモ左ノ
如シ

柏原——墨山地區

柏原	磐城崎地區
片岡	別飛地區
片岡	蔭湖地區
片岡	國端崎

3. 交通不便ハ有時、際支障甚カラザルハ
勿論、平時ニ於テモ各種ノ不便ヲ來ス

(1) 即チ左ノ如シ
内地上司ヲ各部隊ト、連絡不充

分ニシテ事務滞滯ス
(2) 人ノ交流不便ニシテ突發事情ニ對

應善處スルハ勿論所命ノ行動ニ
支障ヲ來スノ慮アリ

(二) (ハ) 重要事件ニ對スル處置困難ナリ
島内發生ノ重要事項ノ處置

遷延ス
(ホ) 島内ニ重態患者發生ノ場合等
困惑ス

二、通信

1. 全般ノ通信系ハ參謀本部報告書

ニ、現下要塞内連絡ノ為メニ設備シ
アル通信網附圖第三ノ如シ

第六軍紀風紀並ニ服務

軍紀風紀ハ概シテ嚴正ニシテ服務カハ
 眞劍積極的ナリ
 抑本司令部ハ其編成急速ニシテ
 素質ノ詮衡必ズシモ熟慮推薦ニ
 依ルヲ得サリシモ將校及下士官ノ
 人選ニ注意セラレタルト備人中
 軍隊教育ヲ受ケタルモノ約三分ノ一
 ヲ算シタルト其教育ヲ受ケザルモ
 軍隊生活ノ形容ヲ承知シアルトニヨリ
 ヲク上官ニ服從シ致々トシテ勉勵
 シアリ今後モ一層本狀況ヲ永續
 セシメ軍屬ヲ以テスルモ尚有爲ナル
 第一線部隊タル能力ヲ發揮セシム
 ベク幹部ヲ督シテ銳意良習涵養
 ニ努メントス

第七 内務及教育

本司令部ハ北境第一線タル現況ニ
 基キ内務及教育ハ初年兵教育ニ則リ
 精神教育ヲ主體トシ要塞員タルニ
 必要ナル事項ト警備能力ノ附與ニ
 重矣ヲ置キ附表第二第三ノ如ク
 企畫ヲ定メタリ然レトモ居室ノ狀況
 年齢ノ差職業及素質ノ景況要塞
 業務分担ノ關係等各種ノ事情アルヲ
 以テ彼此考量シ以テ企畫ニ沿フベク
 月別豫定ヲ定メテ難ヲ排シテ已定ノ
 教育實施ニ邁進シアリ
 而シテ傭人ニ對シ實施セル教育ヲ
 場グレバ左ノ如シ

精神訓練

一五回

小銃實射撃

一回

火砲及小銃ノ手及取扱法

一回

衛生法救急法

一回

體操及各個教練

一回

防禦

一回

今後ハ一層コレヲ強化シ且ツ教ヘ
 且ツ實務セシメ其能力ノ向上ヲ計
 ラントス

第八 要塞現有兵器
 一、本要塞現有兵器及彈藥ノ主ナルモノ
 二、附表第四ノ如シ
 三、受領兵器中雨水及海水ノ為發錆及
 四、腐蝕セルモノ、並ニ使用不能ノモノ、
 五、修理手入ヲ要スル眼鏡等數カラ
 六、ガリシモ修理ヲ要スルモノハ多ク
 七、隊ニ托シテ携行歸還セシメ改修後
 八、送付ヲ受タル如ク處置シ手入ヲ
 九、要スルモノハ担任者ニ於テ之レガ
 十、實施ニ努メツツアリ
 十一、而シテ之レガ為備砲ノ射撃實施
 十二、ニ支障ヲ來スコトナシ

第九 防禦營造物

一本要塞、防禦營造物ハ殆んど急造（木造）
建築ニシテ耐寒ニ對スル設備ハ十分
ト言ヒ難ク又土製部等ハ凍結、
解氷時ノ影響ニヨリ障礙ヲ受クル

モノト豫想セラル

二、通信網ハ附屬第三、如ク司令部――

各砲台間ニ有線通信（無線）アルモ

建設ヲ急ガタル為一部ハ假電柱

ヲ使用シテ來年建設ヘ要ス

又當地ハ特異ノ天候、氣象ヲ呈スル

ヲ以テ冬季風雪害ヲ受クルコト

大ナルモノト豫想セラル

第十經理

經理、狀況ハ概シテ良好ナリ其概要

次ノ如シ

一、糧秣ハ越年所要ノモ、ハ充分ニシテ
 多ク久部隊ヨリ引繼ヲ受ケタルモノヲ
 合シ司令部現員ニ對シ概ホ明春
 六月末迄、モ、ヲ有ス其貯藏ニ
 就キテハ新營ノ糧秣庫ヲ利用シ
 得ルヲ以テ大ナル顧慮ヲ要セサルモ
 土地柄上濕潤並ニ鼠害ニ對シ注意
 ヲ倍落スル要アルモノト認ム
 二、副食物中生野菜ハ貯藏庫ヲ利用シ
 得ルヲ以テ所期ノ要求ニ應シ得ル
 モ、トハ認ムルモ冷氣下長期貯藏

ニ關シテハ常研究ヲ要ス

尚現地物資ハ皆無ニシテ眞ニ

山ニ焚クベキ一木ナク野ニ食フベキ

一菜無ク全部ヲ内地本土ヨリ

仰ガザルベカラズ

但四月下旬以降ハ漁獲アリト

云フ

三、燃料ハ石炭及木炭ニシテ本期越年

ノ爲ニ充分ナル量ヲ有ス

四、被服給與ハ耐寒ニ支障ナシ

土地濕潤ノ爲明春早々ゴム長靴

ノ交付ヲ希望ス

又被服修理材料並ニ其工具一切皆

無ニツキ明春第一船ニテ送付交付

才ヲ希望ス
 尚將來被服一切ニ關シ官給貸與ノ
 件配慮ヲ希望ス
 五、金錢給與ハ其大部ヲ各人ノ留守宅
 ニ送附セシム而シテ當地ニテ支給スル
 僅少ナル殘部モ徒費セシメザル如ク
 郵便貯金ヲ勵行シアリ
 之ヲ要スルニ物的資源一切ハ全部内地
 本土ヨリ輸送セザルベカラザル現況ニアル
 ヲ以テ時期、輸送機關並ニ貯藏庫ノ
 許ス限リ多クヲ集積シ置クノ要アリ
 自給自足ニツキテハ將來ノ研究ニ俟
 タントス

第十一 衛生

衛生状態ハ概不良好ナリ 以下細部ニ
關シ述ベントス

- 一、目下傭人中一名「ヘブレニー」ノ症状ヲ有
スル者アリテ近ク解傭ノ豫定ナリ
- 其他ハ比較的的健康ナリ
- 二、多久部隊ヨリ相當多量ノ藥物ノ引繼
ヲ受ケタルヲ以テ藥物ニ就キテハ當分
不足スルモノナシト認ムルモ絆創膏ハ
明春第一船ニテ追送ヲ希望ス
- 三、醫務ニ關スル施設中建物ハ三等病院
相當ノモノ有ルモ目下之ヲ當部官舎ニ
利用シアル爲 應急的業務ヲ實施
シ得ル程度ナリ

陣營具ニ關シテハ充分ト言ヒ難キモ
目下ノ所支障ナシ 尚衛生試驗材料
ハ後送ヲ豫定シ居ルモ目下ノ所皆無
ナリ 各砲台ニハ交通不便ナル爲
特ニ身體強健ナル者ヲ選定シ四名
乃至五名配置セリ 此等砲台ハ冬期
ニ於ケル交通ハ到底望ミ薄ナル爲
取敢エズ應急藥ヲ配給シ置キタリ
尚特ニ不便ナル葎ノ類ノミハ衛生ノ心得
アル傭人ヲ一名配當シ於ケリ

四、目下當地ニハ部外者僅少ニテ 特種地
才病タル水腫病ヲ除キテハ特記スベキ
疾病ハ認メザルモ將來特種理學的
療法ヲ要スル患者並ニ充分ナル榮養

補給ヲ要スル患者等ヲ生ズル場合ニ於テハ
北海道本土ノ病院ニ後送療養セシメ
ザル可カラザルヲ以テ當部ノ患者ヲ後送
入院セシム可キ内地病院ヲ指定セラレタシ
氣温低下及ビ土地濕潤ニ因スル疾病及
ビ水腫病ニ對シテハ顧慮シアリ

第十二 事務

當部ハ出發ヲ急ギタル爲 充分ナル事
務上ノ教育迄ニ連絡ヲナシ得ザリシト
當事者ノ未熟ナルトヨリ準備スベキ
諸規定等ノ不備有リ 且明春四月
迄ハ交通杜絶スルヲ以テ事務滞
スベキヲ豫想セラル 即チ銳意
當事者ヲ督勵指導シ以テ過誤ヲ
未然ニ防グコトニ努カメントス
留守業務ハ津輕要塞司令部ニテ担任
シアリ
本司令部幹部ノ業務分担附表第五
ノ如シ

結言
 之ヲ要スルニ本要塞ハ臨時ニ編成セラレタル集成部隊タルニ不拘一同光榮アル北境第一線警備ノ名譽ヲ自覺シテ常ニ志氣旺盛ニ喜ンデ任務ニ就キ積極的ニ活動シアルヲ見テ本職ハ特ニ欣快ニ堪ヘザル所ナリ
 今後一層各員ヲ督勵シ如何ナル難境ニ到ルモ欣然之ヲ排除シテ任務ニ倒ルノ氣概ヲ養ヒ且教ハ且行ハシメ以テ北境ノ警備ニ万遺憾ナキヲ期ス

昭和十五年十一月二十日

北千島要塞司令官 小林俊一

秘 附表第一

昭和十五年ニ於ケル

北千島越年者調

北千島要塞司令部

備考	計	永住者	漁業従業者	通信無線局	郵便局員	警察官	通信局燈台	海軍水路部	職別		占守島	幌筵島		阿頼度島		計	
									男	女		男	女	男	女		
永住者ハ別所ニ即着(家族四及小宮山丹次(家族三)ニシテ小宮山利三郎(丹波父)ハ昭和八年ヨリ住居シアルニ本年ハ内地旅行中ナリ)	三	二	三			一	七		男								
	三	一	八			一	二		女								
	一	五	八			二	二		小								
	七	八	九			四	二		計								
	五		四	一	三	二	〇	六	男								
	五		三	一		一			女								
	二	五	二			一			小								
	八		七	二	三	四		大	計								
	二		九	九					男								
	九		三	三					女								
三		一	一					小									
一		三	三					計									
三		六	一	三	三	七	六	男									
九	二	七	一		三	二		女									
四	一	三	一		二	二		小									
〇	五	三			三	二		計									
四		一	二			一		男									
六		三	一					女									
一		七	二					小									
七		三	二					計									
五		七	二					合									
		八	二					計									

秘

附表第二

昭和十五年十月教育企画

昭和十五年十月二十一日
北千島要塞司令部

一、方針
 第一線要塞司令部職員地雇傭人トシテ必要ナル堅確ナル
 軍人精神、旺盛ナル志氣、積極熾烈ナル責任感、心ノ養成
 及ビ時局ノ認識ヲ重点トシ且司令官ノ統率方針ヲ徹底セシム
 各砲台ニ勤務スル監守地雇傭人ニ對シテハ短期間ニ基礎的事項
 ヲ徹底的ニ教育シ且當地才特有事項ヲ知得セシメ以テ完全
 ニ服務シ得ルニ至ラシム
 二、實施要領
 三、雇傭人ニ對シテハ軍人精神ヲ涵養セシメ且軍紀教練、内務
 ノ躰、小銃射撃ヲ教育シ一般兵同様タラシメ軍隊生活ニ慣熟セシム

考 備	術 科	術 科	學 科	區 分		摘 要						
				課	目 回 教 官							
一、積雪ノ状況ニヨリナルベク速ニスキー教育ヲ實施ス 二、將校ノ會食ヲ努メテ多クシ意志ノ疎通ヲ計ル 三、衛兵及日直勤務ハ教育シツツ資ヲ充テシム	劍 術	小銃射撃	軍紀教練	衛生法救急法	情報防謀	五兵戰備	砲兵戰備	防衛(戰備)防空(戰時警備)	動員	諸法規	講話	精神訓話
	三	二	八	三	二	二	二	一	一	三	三	三
	情報主任	情報主任	高級部員	軍 医	情報主任	五兵部員	砲兵部員	高級部員	高級部員	副 官	高級部員	司令官
	一、砲兵戰備ノ學科ハ砲兵部配屬者ノミトシ 二、部員ヲシテ専門事項ニ關スル智識ニツキ相互ニ普及セシム 三、術科ハ雇傭人ニ對シテ行フモノトス											

附表第四

主要兵器彈藥一覽表

品目	柏原	壘山	葦原	洞	警	城	別	飛	計
四五式十五加(連車失)		二							二
三八式十加		四							八
三八式野砲		四							六
九二式重機砲									一
高射用具									一
要塞火工具	二								二
三八式野砲工管具	二								二
要塞器材	一								一
九二式三號無線機									三
九二式對空三號無線機									一
中城工兵爆破用具									一
火藥		六							六
四二式		二							二
九三式火銃彈									
九三式榴彈									
三式榴散彈									
三式榴散彈									
九二式重機砲射擊包									
九二式重機砲射擊包									
三式銃實包									
三式榴散彈	三六〇〇	七〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	七〇〇	一六〇〇	一六〇〇
九二式榴散彈	七六〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	六四〇〇	一六〇〇
三式榴散彈	二四〇〇								二四〇〇
三式榴散彈	七三〇〇								七三〇〇

陸軍

秘

附表第五

北千島要塞司令部職員表

昭和十五年十月二十三日調

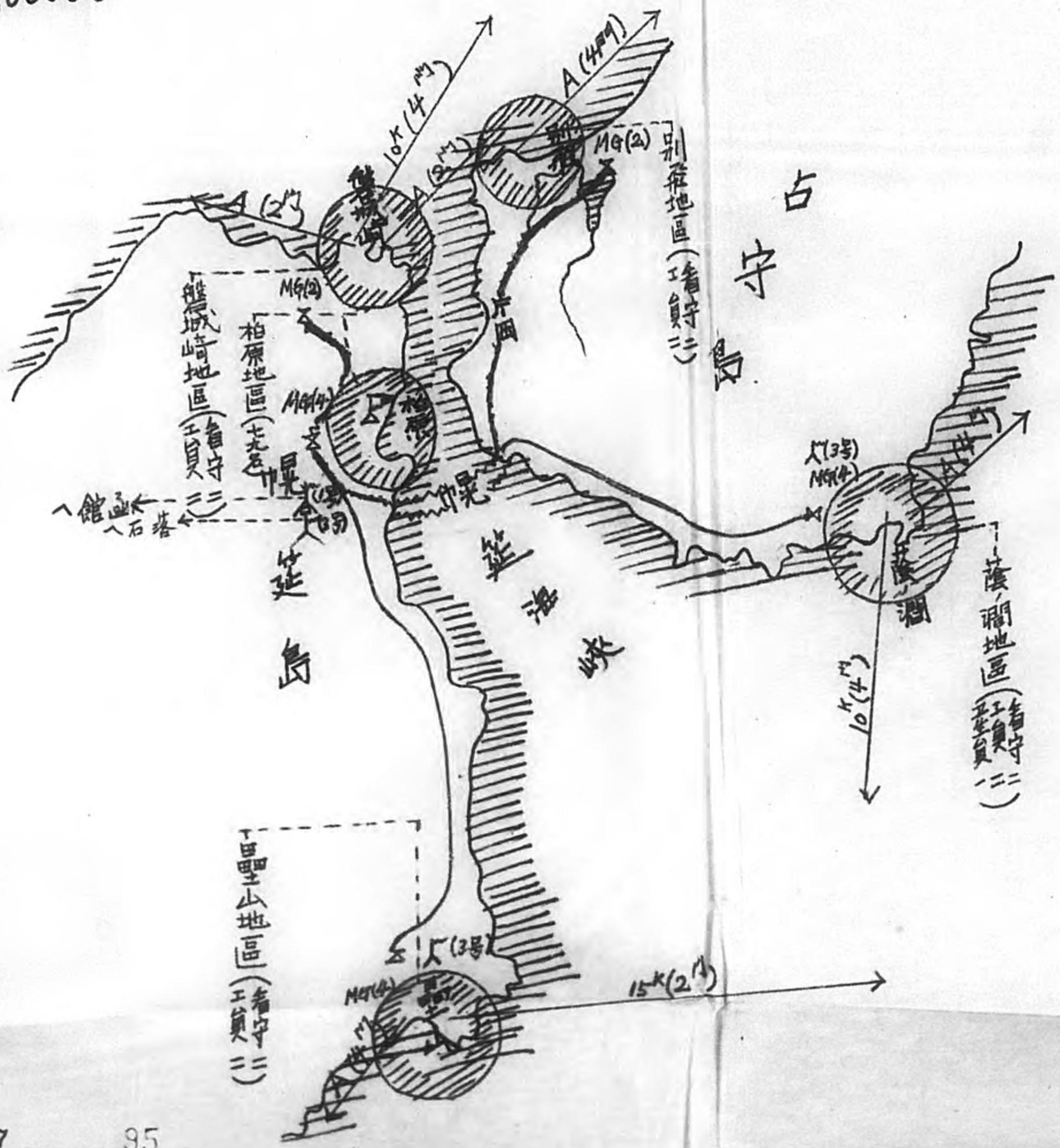
考備	(26) 一 俊 林 小 佐 中 軍 陸						將	校
	部生衛	部理經	部兵工	部兵砲	部官副	部畫企	高級部員	參謀業務
指 導 中 期 別 八 役 種 示 示 示	軍醫少尉 藤本尚郎 (現籍)		大 部 尉 員 兼 通 信 掛 土井芳雄 (45)	大 部 尉 員 兼 暗 号 掛 唐津俊二 (予)	中 副 尉 官 稻積 猶 (後)	中 部 少 佐 尉 員 能 清 吉 正 作 英 三 (後) (29)	尉 佐	尉 佐
	主任長 茂廣 一	主任長 石川作三郎	通信兵長 野田春茂 通信兵長 大田常雄 通信兵長 林田春茂	曹長 石松物次 技長 井口長四郎 技長 野田春茂	技長 北澤正辰 技長 高田定清 技長 結野七郎	砲兵曹長 齋藤銀六 砲兵曹長 福山熊太郎 砲兵曹長 山本弘治 砲兵曹長 三浦生吉 砲兵曹長 久米好一 砲兵曹長 土谷忠雄	軍曹 濱崎德次郎	准士官 下士官

北千島要塞配備要圖
(十一月二十一日)

200000

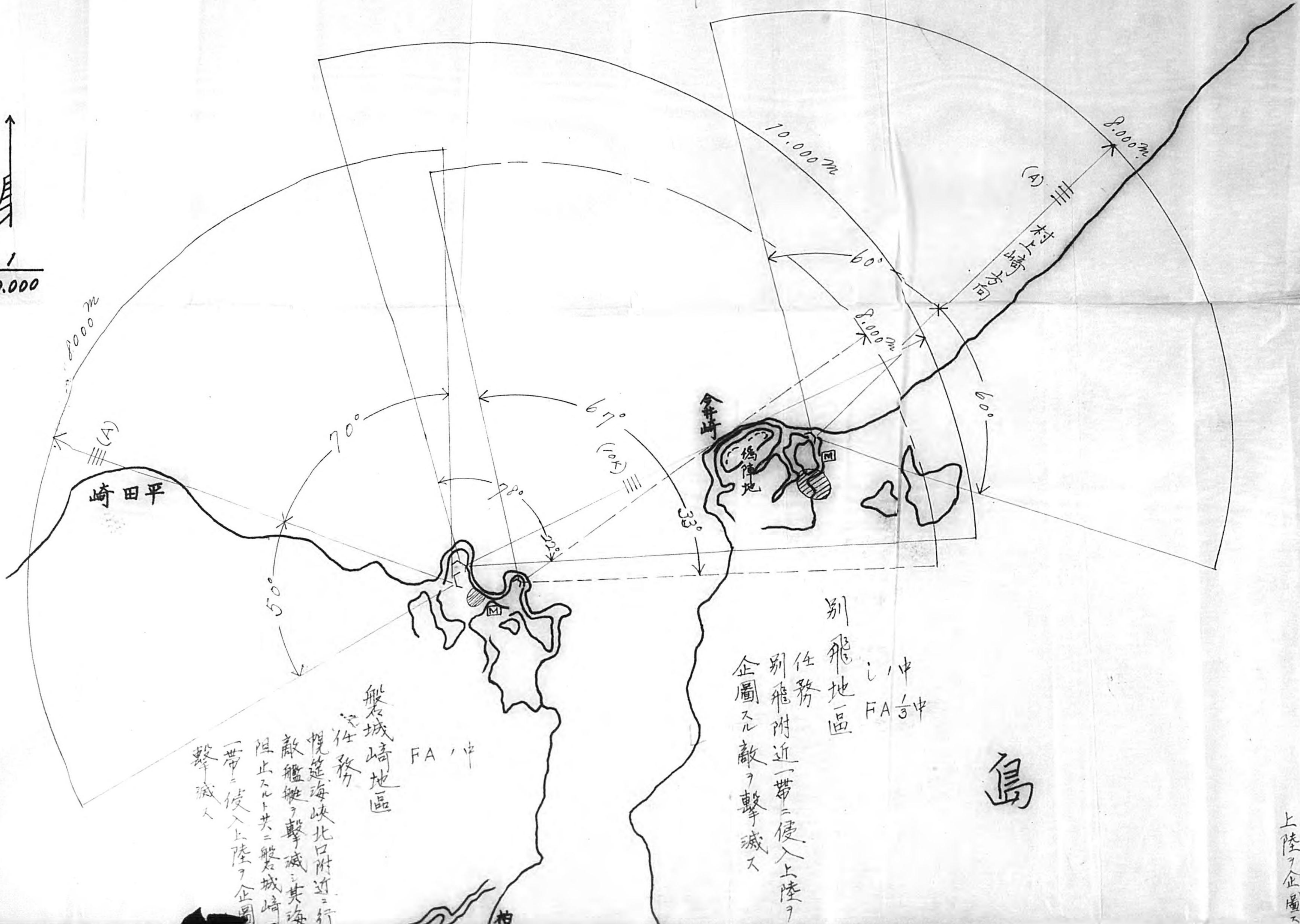
附圖第一

〔註〕
一各地區ハ兵舎並ニ倉庫アリ
二砲臺ハ各地區ニ分置シ其大部ハ柏原地區ニ在リ
三砲臺備砲ヲ据テアハ聖山地區、15K(2)ノ他ハ附近兵舎ニ收貯ス



防禦配要領圖

IMT 497 99



般名城崎地區
 任務
 攔截海峽北口附近之
 敵艦艇之擊滅其海
 阻止其共二般名城崎
 一帶之侵入上陸之企圖
 擊滅之

別飛地區
 任務
 別飛附近一帶之侵入上陸之
 企圖之敵之擊滅之

島
 任務
 壘山地區之相俣
 附近之行動至
 海峽侵入之阻止
 上陸之企圖之

守

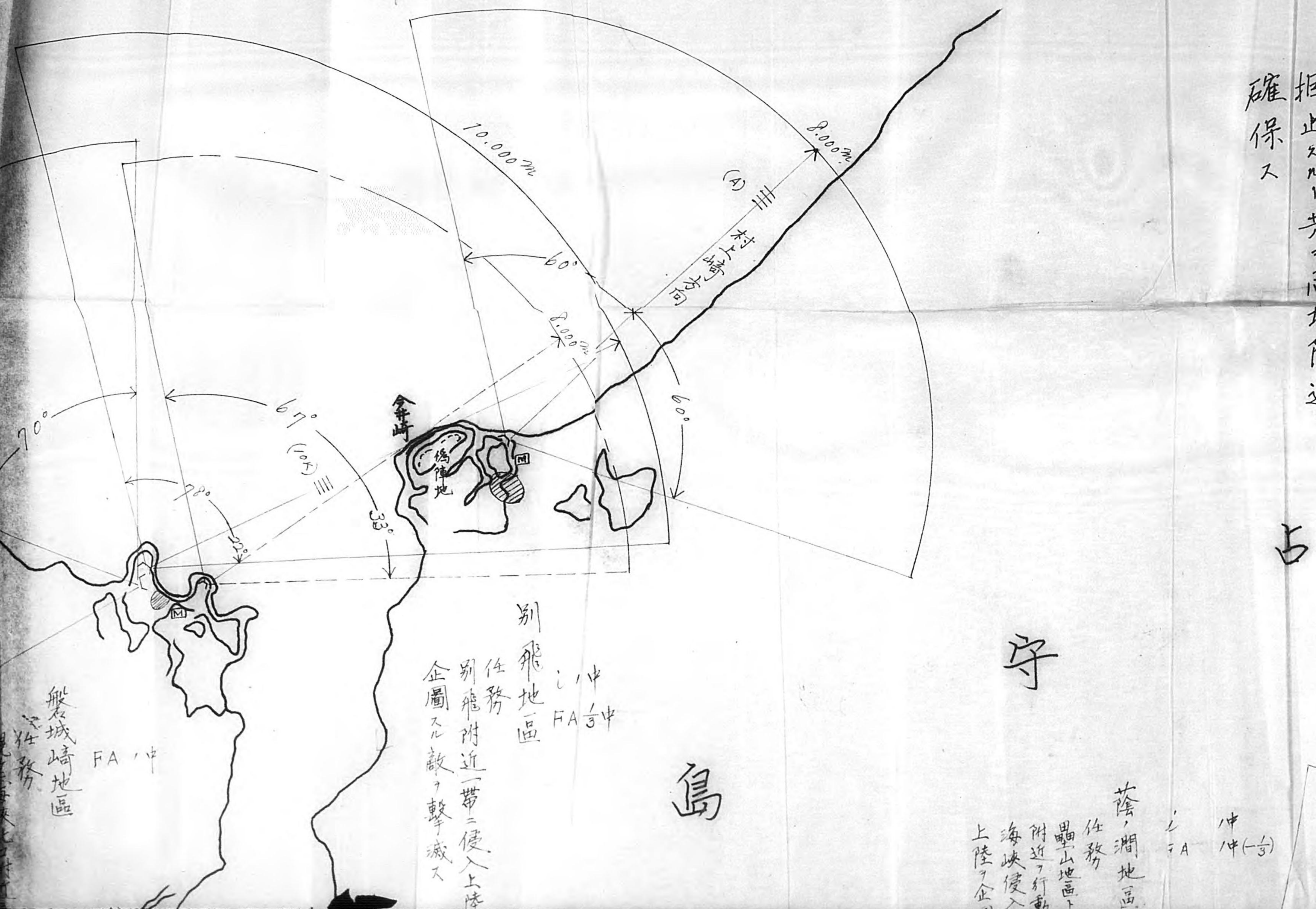
陰、淵地區
 任務

中
 FA

防禦配要領圖

附圖第二

防禦方針
 海軍ト協同シ幌筵海峡ニ
 侵入セントスル敵艦艇ヲ
 拒止スルト共ニ同地附近ヲ
 確保ス



守

島

別飛地區
 任務
 別飛附近一帶ニ侵入上陸
 企圖スル敵ヲ撃滅ス

陰ノ湖地區
 任務
 壘山地區下
 附近ヲ行動
 海峡侵入
 上陸ヲ企圖

般城崎地區
 任務
 FA 1/2

守

蔭、瀨地區

任務
 出島山地區下相俣ヲ監視海峽南口附近ヲ行動スル敵艦艇ヲ擊滅シ其海峽侵入ヲ阻止スルト共ニ中川灣ニ上陸ヲ企圖スル敵ヲ擊滅ス

島

飛地區

任務
 別飛附近一帶ニ侵入上陸ヲ企圖スル敵ヲ擊滅ス

般城崎地區

任務
 梶筵海峽北口附近ニ行動スル敵艦艇ヲ擊滅シ其海峽侵入ヲ阻止スルト共ニ般城崎西方海岸一帶ニ侵入上陸ヲ企圖スル敵ヲ擊滅ス

相原地區

任務
 八總務隊トナリ各地區ノ戰關ニ協力特ニ占守島ニ上陸ヲ企圖スル敵ヲ擊滅ス

備考

- 一、占守島國端崎、阿賴度島、狐崎、及散島ニ監視哨ヲ派遣シ敵艦艇ノ敵艦ヲ監視セム
- 二、各地區ノ九一式重砲、八輝庫庫等重要施設直接防衛任務ニ所要ニ應ニ上陸部隊ニ使用ス

100

INT 457

(100)

10000m

豫備陣地

占守島 豫備陣地

柏原灣

FA 中

中 1/3 中 FA

中 1/3 中 FA

FA

司令 (-3中)

要 BA P

司令 (-3中)

要 BA P

司令 (-3中)

要 BA P

司令 (-3中)

要 BA P

司令 (-3中)

要 BA P

司令 (-3中)

要 BA P

司令 (-3中)

守

島

蔭、湖地區
任務

出島山地區下相俟テテ隄築海峽南口
附近ヲ行動スル敵艦艇ヲ擊滅ス其
海峽侵入ヲ阻止スルト共ニ中川灣ニ
上陸ヲ企圖スル敵ヲ擊滅ス

飛地區

任務
別飛附近一帶ニ侵入上陸ヲ
企圖スル敵ヲ擊滅ス

般城崎地區

任務
隄築海峽北口附近ニ行動スル
敵艦艇ヲ擊滅ス其海峽侵入ヲ

司令部 (-3中)
BA 2中
P 1中

備考
一占守島周圍諸島ヲ偵察スル
又散島ニ監視哨ヲ設置ス



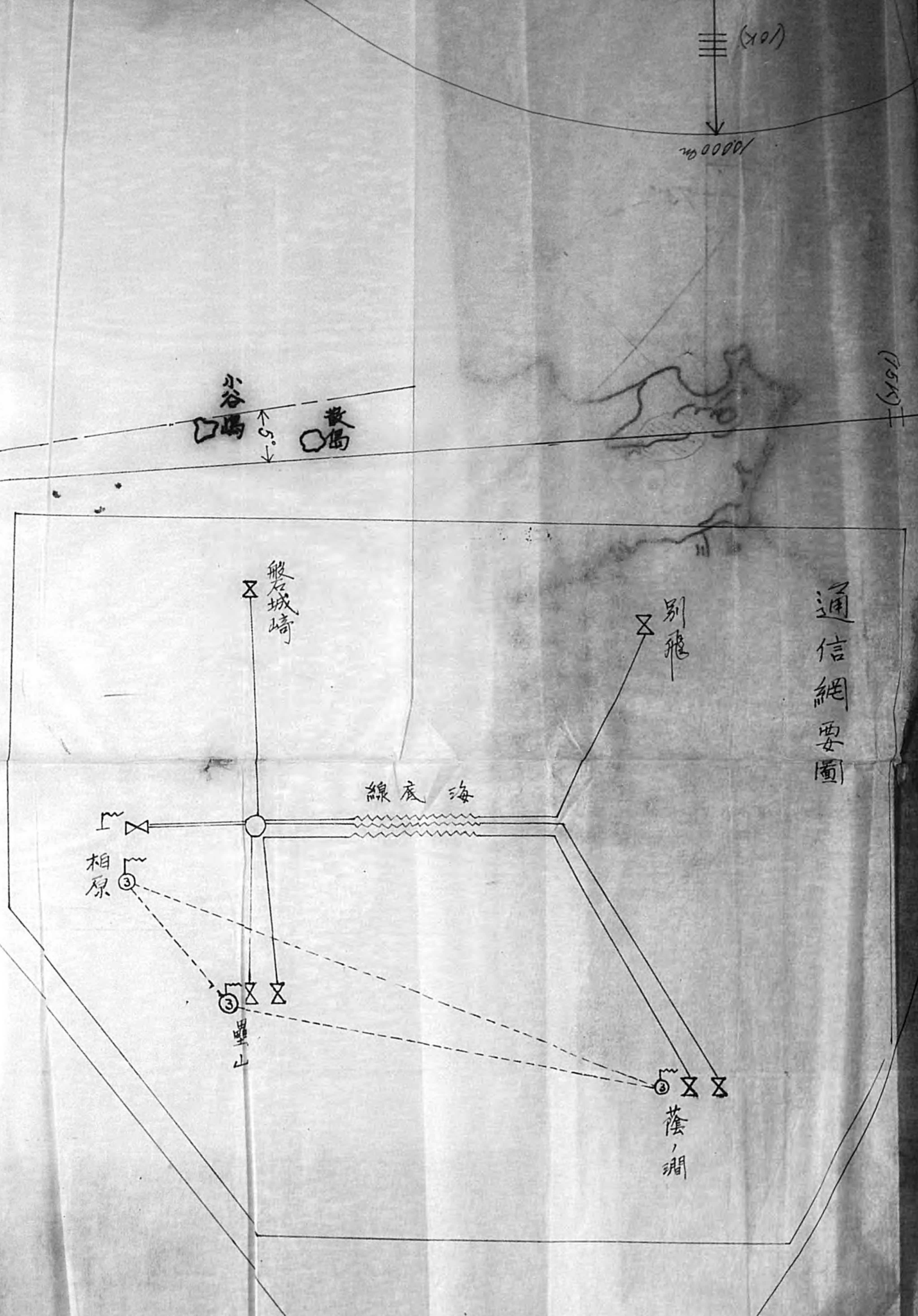
16
TMT 497

10000m

阿賴度島孤崎
 派遣之敵機並
 機、彈藥庫等重
 空任之、所要
 使用人

壘山地區
 任務
 一、視察海峽南口附近行動
 敵艦艇ヲ擊滅シ其海峽侵入
 ヲ阻止スル共朝日灣ニ上陸ヲ企
 圖ス敵ヲ擊滅ス
 二、FA聯隊長ハ視察海峽南口、戰鬥
 ヲ統一指揮ス

聯隊本部
 聯隊中
 FA
 FA

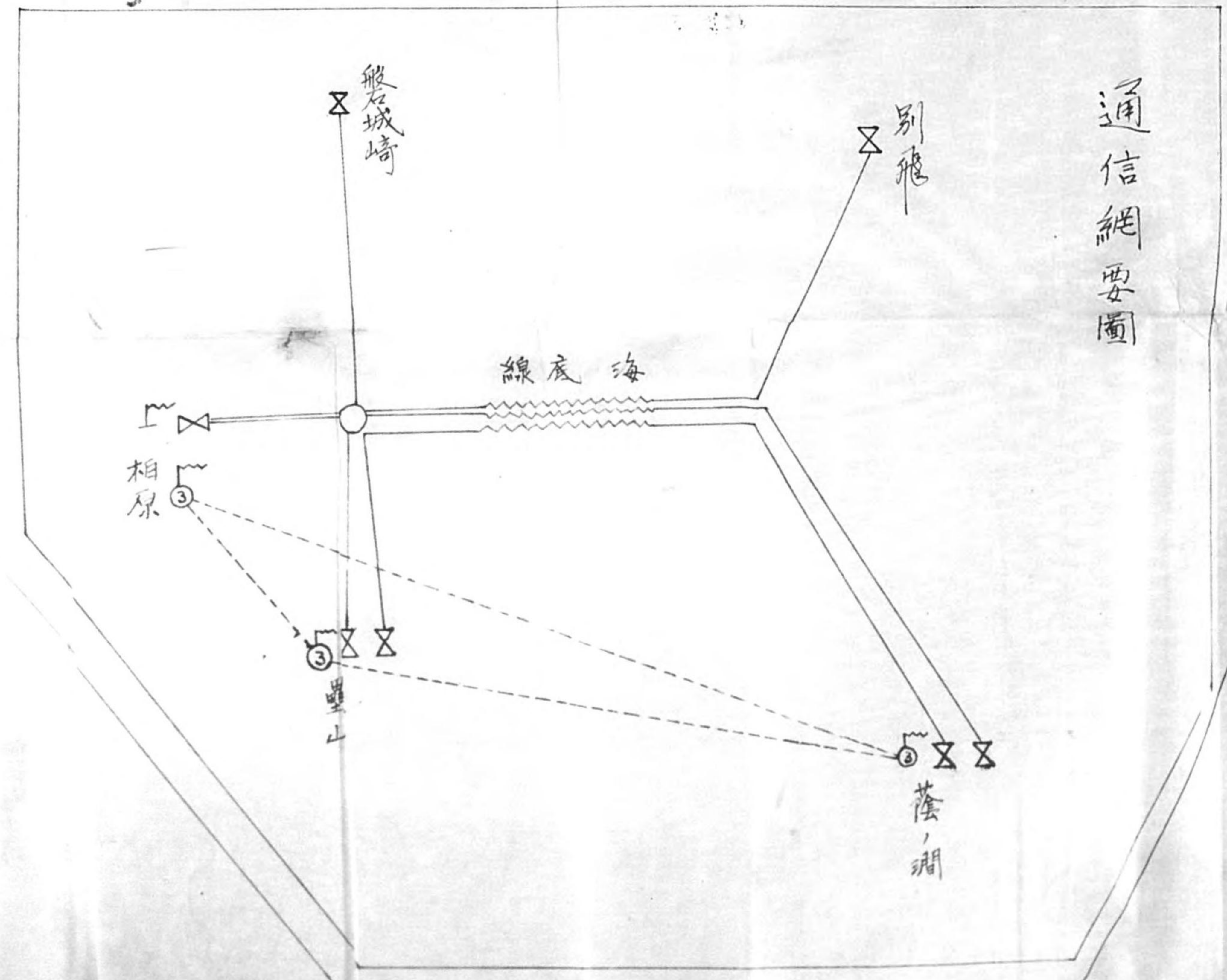


通信網要圖

河賴度島孤崎
機彈藥庫等重
機彈藥庫等重

壘山地區
任務
一、視察海峽南口附近行動
敵艦艇ヲ擊滅シ其海峽侵入
ヲ阻止スルト共ニ朝日灣ニ上陸ヲ企
圖スル敵ヲ擊滅ス
二、FA 聯隊長、視察海峽南口、戰鬥

聯隊本部
FA
FA



通信網要圖

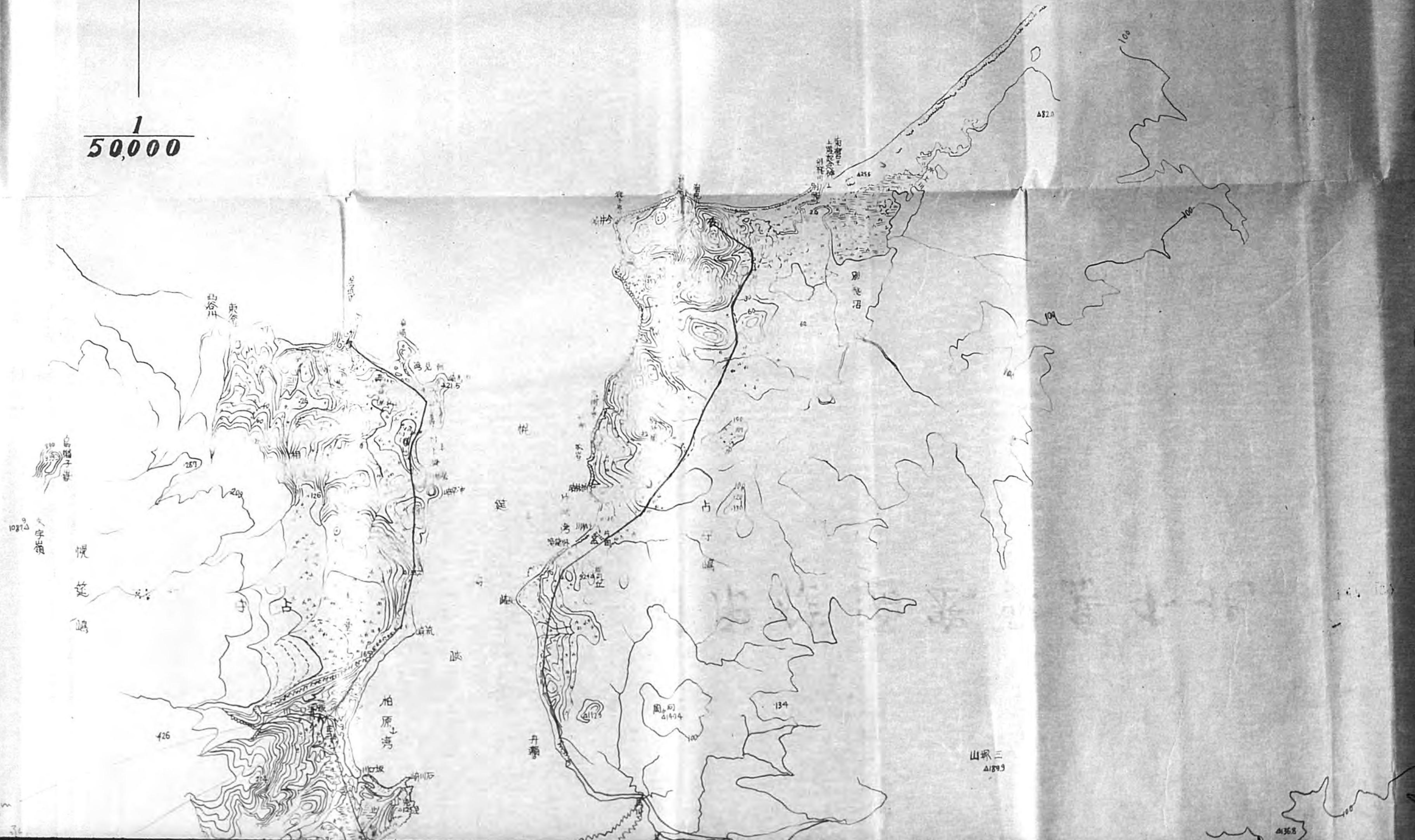
北千島要塞通信用圖

IMT 497

104

IMT 497

104



北千島要塞通信用圖

IMT 497

102

IMT 497

104

真



附圖第三

秘密





山塚三
4189.5

山岡
4140.4

柏原湾

中川

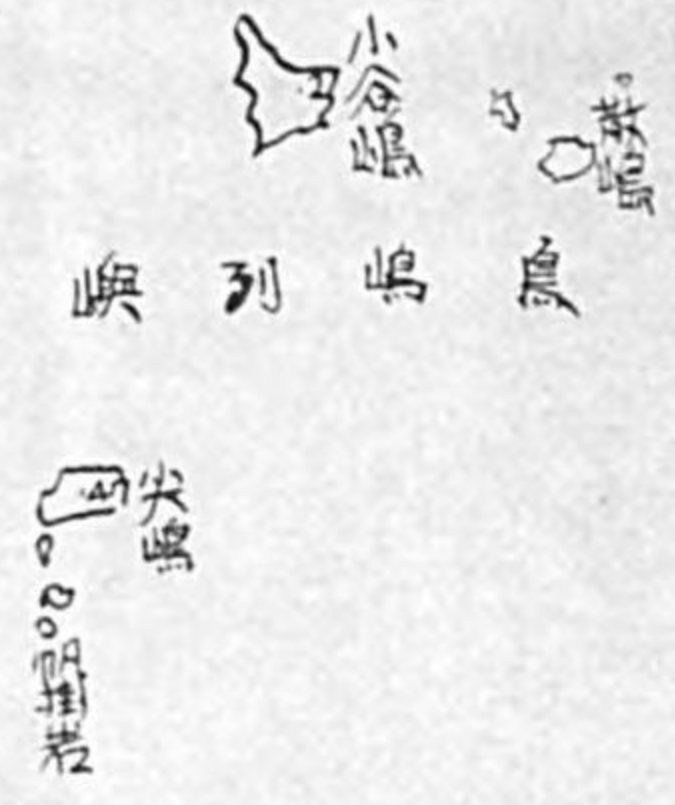
三塚

例 凡

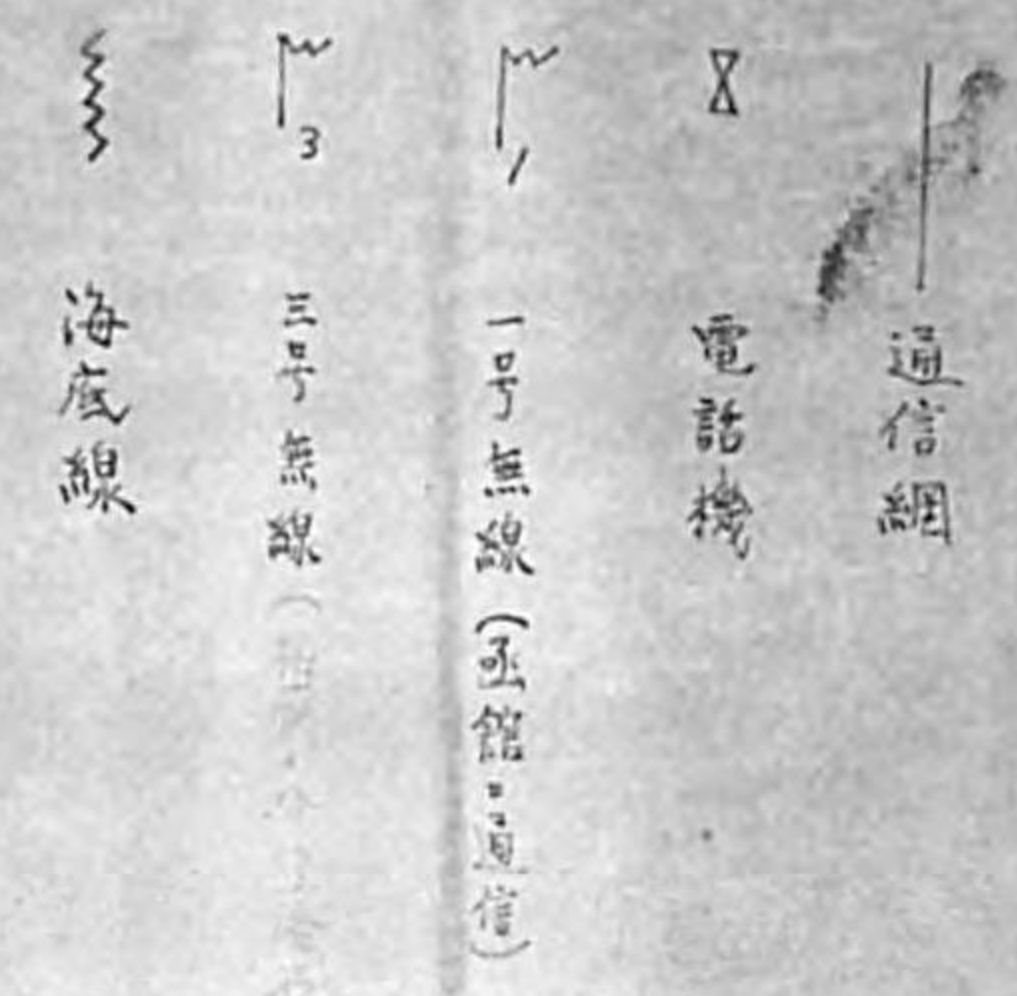
- 海底
- 電柱
- 通信



西 坡 成 山 原



例 九



IMT 497

103

軍事極秘

第參號

北千島ニ關スル意見

北千島要塞司令部

他部長

番第	配布先	配布区分	送	要
第一番	参謀總長	陸軍大臣		
第二番	旭川師團長			
第三番	北都軍司令官			
第四番				
第五番	控			

陸軍

目次

- 第一、現要塞ニ平時ヨリ兵備ヲ増強スル件
 - 第二、北千島ニ平時ヨリ有力ナル兵備ヲ準備スル件
 - 第三、北千島ヲ陸軍ニ移管ヲ受クル件
 - 第四、北千島ニ要塞地帯ヲ速ニ設定スル件
ト共ニ關係各省竝ニ北洋水産業者トノ協調ヲ密ナラシムル件
 - 第五、交通通信ノ便ヲ速ニ講スル件
- 附表
- 第一、北千島要塞司令部員配布要領一覽表
 - 第二、北千島要塞直接警備所要人員一覽表
- 附圖
- 第一、北千島要塞地帯一覽圖
 - 第二、北千島要塞地帯一覽圖

第二、相模地區軍用建物配置要圖
 第三、北千島要塞各地區漁場關係要圖

第一、文部省...
 第二、海軍省...
 第三、陸軍省...
 第四、...

海軍

本意見ハ至短見聞並ニシテ
 推考共ニ充分ト謂ヒ難キ
 其價値四分マデハ交通
 毛明春四月ノ一般ノ事情
 杜絶スルトモ一般ノ事情
 急ヲ要スルモ一般ノ事情
 ニヨリ取リ敢エズ具申
 スルモノナリ

陸軍

昭和十五年十月二十六日

北千島要塞司令官小林俊一

第一現要塞ニ平時ヨリ兵備ヲ増強スル件
 一北千島要塞ニ平時ヨリ最少限度直接警備
 兵カトシテ各地區(司令部及砲台所在地ヲ
 中心トシテ五地區ニ區分シアリ其要領
 附圖第一ノ如シ)毎ニ衛兵要員トシテ
 將校ノ指揮スル約一小隊ヲ増置スルヲ
 要ス
 (理由)

一本要塞定員ハ司令官以下八十一名ニシテ
 其人員配布要領附表第一ノ如シ
 而シテ各地區ニハ砲台、兵舎、彈藥庫、
 兵器格納所(兵舎ヲ利用シアリ)糧秣庫
 等警戒ヲ要スベキモノアリテ現在ハ取
 敢エズ各地區毎ニ司令部員自ラ本業

警ヲ實施シツツ他面コレガ警戒ニ任ジ
 ツツアリ
 然レトモ本來現在ノ當要塞編成人員
 ハ人的及物的ノ資源皆無ナル無人島
 ニ於テ風雪波浪ヲ制克シテ要塞備
 砲彈藥糧秣其他ノ整備ヲナシ
 要塞戰備ノ企画ニ任ジ得ル最小限度
 ノモノニシテ他ニ連日連夜ニ巨ノ警備
 警戒ニ任ジ得ル要員ハ無之モノト思考
 ス故ニ此等工員等ヲシテ衛兵ニ
 準ズル警戒ヲナサシムルコトハ自ラ
 工務ノ選擇ヲ招來シ延ヒテ戰備ニ
 影響ヲ來スモノト考慮セラレ
 而シテ特ニ當地ニ於テハ内地ノ如ク臨機

臨時ニ傭人ヲ徴シ得ザルコトト、司令部員ノ寒中起居一切ハ部員自ラコレヲ賄ハザルベカラザルコトト、現在、砲工矢部担任ノ兵器器材ガ長期航海ト北千島ノ濕潤ノ爲ニ其程度低下シ其手入整備等ニ餘日ヲ貸シ難キ状況ニアルト、三件ハ内地常設要塞ト全然其趣ヲ異ニスルモノアリ、参考ノ爲ニ衛要塞ヲ人員最モ多キ相原地区ニ於ケル傭人ノ使用現況ヲ示セハ次ノ如シ(附圖第二参照)

- (イ) 廳舎 電話交換手(兼小使) 二
- (ロ) 將校宿舎(二棟、兵舎ヲ改造シテ將校ハ名合宿ス) 炊事當番 二

- (ハ) 下士官傭人宿舎(三棟、病児ヲ當舎ヲ改造シテ下士官以下合宿ス) 其他諸當番 三
- 炊事當番 三
- 其他諸當番 三

- (ニ) 醫務方室 當番 二
- (ホ) 經理室 經理事務助手及當番 二

- 糧秣事務助手及當番 二
- 酒保事務助手 一

- (ヘ) 通信 通信手(内ニ八島山ノ派遣ノ等) 四
- (ト) 海上勤務 船員 五

(4)砲兵部	工員	四
(3)工兵部	工員	三
(2)其他	大工 工員助手	二 一
(1)計		四

(備人總員五十名中 九名ハ各砲台ハ分遣中)
 右ノ如ク柏原地区ニ於テモ警備困難ナリ
 況ンヤ四人乃至五人ヲ以テ任シアル各砲台
 地区ニ於テオヤ
 本要塞ノ備人ハ其素質トシテ在御軍人ヲ
 希望シタルモ事變ノ爲ト募集急ナリシ

為在御軍人ノ籍ニアルモ僅カニ總員ノ
 三分ノ一ニ過ヤズ コレ等ヲ以テ警戒セシ
 メントスルモ餘人ヲ以テ換ヘ難キモノ多ク
 アル爲止ムヲ得ズ他ノ未教育者ヲ教育
 シツツ警戒勤務ニ服セシメザルベカラズ
 從ツテ其成果亦推シテ知ルベキノミ
 3. 加之四月以降澳撈期ニ於テハ 其出身性格
 及思想等不明ナル多クノ地才水産従業
 者來島シ而モ各地区ニハ兵舎砲台ニ
 接シテ漁場ヲ有スルモノ尠カラザルヲ以テ
 其警戒ハ冬季ニ比シ一層嚴ナルヲ要ス
 4. 即チ現要塞人員ヲ以テ警戒セシメント
 スルハ過望ニシテ必ズ別ニ要塞衛兵ニ
 任スル兵力ヲ常駐シテ警戒ニ任セシムル

ヲ要ス

5. 試ミニ本職ノ一案ヲ呈示セバ次ノ如シ

(1) 兵種ハ歩兵ヲ可トス

(2) 指揮系統ハ要塞司令官ノ直屬ス

(3) 兵力 附表第二ノ如シ

(4) 本衛兵ノ裝備トシテハ左記諸件ヲ額

慮スルヲ要ス

1. 防寒防風防雪用ノ被服及器材ヲ要ス

2. 濕地用靴等特殊被服ヲ要ス

3. 雪上行動地ニ除雪器材ヲ要ス

例ハバ

スキー、色眼鏡、カンダキ、橇、除雪具等如シ

4. 昼夜水陸間、吹雪中等ノ連絡器材

ヲ必要トス

6. 尚ホ此等部隊ヲ常駐セシメバ概ネ次ノ

如ク附帯セシ事項ヲ修メ得ベシ

(1) 此等部隊ニ可能範圍内ニ於テ各種ノ

調査ヲ行ハシメ以テ天候、氣象、地形、

道路、産業、出稼者、思想、情報、兵器、

器材、脂油等ニツキ現地ニ應ズル正確

ナル資料ヲ得

(2) 此等部隊ヲ以テ時々特別研究ヲ

行ハシメ以テ北千島ノミナラス將來

北地進出ノ爲ノ戦闘上各種ノ資料

ヲ得(本件ハ兵力ヲ若干宛増加シ

各種兵器ヲ使用スルコトヨリ效果

ハ一層大ナルベシ)

(3) 有時非常ノトキハ之ヲ以テ一時

應急的ニ對空對海監視ニ任ゼシメ得ベシ
(内地本土トノ交通不便ナルノミナラス

天候急変シテ舟航意ニ任セザルコト
多キ當地ニ於テハ計画的ニ新ニ派遣
セラル、部隊ノ機ヲ過タズ到着スルコトハ
必ズシモ確實ト云ヒ得ザルノミナラス

要塞内ノ交通モ不便ニシテ新ニ到着
セル小部隊ヲ其監視哨ニ配置スルハ
現況ニ於テハ時機ヲ失スル虞頗ル多シ
(二) 敵ノ初期奇襲ニ對シ應急ノ陸上防
衛力ヲ有ス

(ホ) 目下兵舎ニ收納シアル火炮ヲ有時ニ際シ
砲台ニ配置シ之ニ偽裝ヲ施シ又ハ
彈藥ヲ搬送スル等ヲ兵力ニヨリ

實行スルヲ得ス

蓋シ現地ハ濕地多ク自動車、砲車等
ノ重車輛ハ行動不能ニシテ人力ニ
俟タザルベカラザルコト多ク而モ現地
ニハ軍隊以外誰人モ居住シアラザル
ヲ以テナリ

二、各砲台ニハ平時ヨリ要塞砲兵ノ一部ヲ配置シ置
クヲ要ス

(理由)

戦闘上敵ノ初期奇襲ニ對應スル為必要
ナリ

蓋シ日本本土ヨリノ輸送ハ期ヲ失スルノ憂
アレハナリ

尚本砲兵ヲ以テ現在兵舎ヲ利用シテ不完全

ナル格納ヲナシアル火炮ノ年入保存ニ任セシムルハ不慣ナル要塞工員二名ニコレヲ任ズルヨリ其効果果著大ナリ
三、當要塞附帯兵備トシテ左ノ如ク整備スルヲ要ス

一、對空監視哨
二、通信網
三、有能汽船

快速艇 一
交通船 二
團平船 四
傳馬 四

(理由)

一、對空監視哨、常時ヨリ準備スベキ必要ハ

時機ヲ失セザランガ爲ナリ
而シテ各要塞地区ノ監視哨ハ止ムヲ得ザレハ前陳要塞衛兵ヲ以テ有時ノ際ニ應急設備シ得ルトスルニ國端岬、村上岬、東岬、阿頼度島東側及北側、間宮崎等ノ六ヶ所ニ就キテハ各別ノ兵力ヲ要ス
止ムヲ得ザレハ國端崎ニハ將校ノ指揮スル有能ナルモノヲ配置シ平時ニ於テハ之レヲ以テ國北ヲ對米、國南ヲ對ソノ情報ニ當ラシムルト共ニ我々ノ部外者ノ監視ニ任セシメ且北端ノ氣象、天候、波浪、積雪、航海、漁撈等ノ調査ヲナサシメ以テ確實ナル資料ヲ得
二、通信網ハ主トシテ此等對空監視哨ト

要塞司令部間ノ用ニ供スルモノナレバ監視哨
配置ニ間ニ合ハバ足ル

但司令部 大湊要港部間ニハ金山、

蔭ノ洞、岩城崎ノ各砲台ト要塞司令部
間ノ無線電信ハ常時開通セシメ常ニ

應急遺算ナカラシムルヲ要ス

(要塞司令部ト各砲台間ニハ無線電信

ノ設備アルモ風雪激シキ場合ニハ切斷

セラル、虞多シ)

船舶ノ必要ハ當地方ノ陸路交通不便ニ

シテ常ニ海上交通ヲ主トスルト、砲台ハ

幌筵 占守兩島ニ跨ルト 要塞地帯

警備監視ノ對照ハ殆んど全部漁撈者

ニシテ海上ニ行動スルモノナルト 且外國船

特ニ「米」ソレノ我カ情況を窺知ヲ防止スル

等トノ關係上他要塞ニ比シ特異性ヲ

有スルモノト思考セラル

而シテ之ヲ細部ニツキ稍、詳説セハ

次ノ如シ

(1)汽船一隻

一〇〇噸級時速一三哩以上ニシテ特ニ

耐波力大ニシテ船首ノ構造堅固ナル

無線裝備ノダイセル機関耐曳船兼用

ノ木造船艇附

(理由)

當地ノ地理的特性 特ニ冬期ニ於テ風浪大

ニシテ氣象ノ变化常無ク數時間(短カキ

時ハ二、三時間)ニシテ天候激変ス

又海岸近キ所ハ結氷シ時。流水アルニ
 鑑ミ人員器材運搬用トシテ前記程
 度ノ汽船ヲ必要トス
 從來ノ要塞汽船ノ如キ鉄製蒸氣
 機関附汽船ハ現在ノ實情ニ適セズ
 而シテ100以上ノ汽船ナル時ハ海上靜穩ナル
 トキ内地本土ハ獨航シ得ル利アリ
 (四) 交通船(ランチ)二隻

ニ一三〇噸級時速一〇哩以上
 耐波力大ニシテ輕度ノ碎氷能力(船身ノ堅固ヲ
 以テ碎氷力ニシテ)
 有スルダイセル機関附或船兼用木造
 交通船

(理由)
 前項汽船ト陸岸ト連絡且曳船及

近距離運搬船トシテ前記程度ノ汽艇
 ヲ必要トス
 第一、ニ共ニ現地ノ氣象狀況(短時間中ニ
 天候急變ス)
 鑑ミ至短時間ニ所要ノ任務ヲ達成
 シ歸還シ得ル如ク可及的時速
 大ナルヲ要ス

而シテ各砲台共ニ風浪荒ク常ニ小舟
 ニヨリ漕航シテ揚陸スルヲ要スルヲ
 以テ汽船ノミニテハ不都合ナリ

(ハ) 快速艇一隻(少クモ)
 ニ一三〇噸級時速三―四〇哩
 特ニ耐波力大ナルダイセル機関附快速
 艇
 止ムヲ得サルハ上陸作戰用高速
 艇(乙)ニテモ可ナリ

(理由)

快速艇ハ危急ノ際ノ救援用ニ
急用務ノ連絡用ニ不法侵入舟
又ハ人ノ逮捕及不正海上業者ノ
取締用トシテ必要ナリ

(二)五十人乃至二十人乗團平船 四隻

傳馬 四隻

(理由)

各砲台所在地ニ汽艇ヲ接着セシム
ベキ棧橋無ク警ヘ之ヲ作ルニ
充分ノ防波堤ヲ附スルニ非ハ波浪荒
クシテ汽艇ヨリ直接上陸スルコトハ
不可能ナリ必ズ曳船ニ漕航ニヨル
小船ヲ以テ揚塔ヲ行ハザルベカラズ

(ホ)汽船及汽艇用「ドック」又ハ汽艇ノ陸上

引揚設備ヲ要ス

(理由)

現地港灣ノ状況ニ特ニ風浪及
潮流ノ大ナルヨリ暴風ノ際ハ必ズ
汽艇ヲ所置スルヲ要ス

四、當要塞ニ對空兵備トシテ左ノ如ク増置

スルヲ要ス

高射砲

一六

高射機同砲

一六

(理由)

本地區ハ「米」ソト開戦スルトキハ第一着
ニ敵ノ空中及海上攻撃ヲ受クルノ公算
最大ナリト思考セララル